



南支那及南洋調査第二百輯

蘭領東印度に於ける土人ゴム栽培

臺灣總督官房調査課

始



發行所寄贈本

例言

- 一、一九二〇年代の始めに於けるゴム價暴落の際、英人佃栽培業者は、蘭領印度のゴム栽培業者が、彼等の生産制限に加入するやう、當業者或は蘭領政府に懇望した。然し蘭領政府は頑として懇望に應じなかつた。それは、蘭領政府が、對土人産業政策の一として、ゴムの栽培を土人に奨励してゐたからである。
- 二、然し、其後ゴムの市價は暴騰し、ちつとそつと蘭領印度の土人がゴムを生産したからとて、痛痒を感じなくなつたので土人ゴムの問題は起らなくなつた。
- 三、然るに、一九二八年頃から、又々ゴムの相場が下落し始めたのみならず、好況時代に植付けた土人ゴムは大に世界の市場を壓迫するに至るであらうといふことを懼れて、倫敦栽培協會は、本書の著者を蘭領の主要産地に派遣して現地に土人ゴムの實狀を調査することになつた。
- 四、本書は、蘭領に於けるゴムの主産地の生産状況を明かにせるのみならず、其他の一般状況を明かにするものとしてゴムに關係を有する者には勿論、蘭領地方の一般状況を審にせんとする者に對しても参考となることと信ずる。
- 五、本書中、土人ゴムと稱するものの中には、支那人産のゴムをも含む。
- 六、本書は、閱覽の便を企に面し、筆寫に代ふるに印刷を以てしたるに止まり、公刊せんとするものではない。



昭和六年四月

臺灣總督官房調査課



14.21-478

### 本書の出版について

最近数年間に於て、蘭領印度に於ける土人所有の土地より生産せらるるゴムの數量は、世界に於て産出せらるる原料ゴムの重要な部分を形成するに至つた。土人ゴム栽培面積の擴張は、近來各方面に、且つ相當な範圍に於て行はれ、之に就ては、種々の報告が今日まで發表せられてゐる。其中の重なるものとして、本協會は蘭領印度農商工務省最近の報告を協會の Bulletin (九月號)中に、そつくり其儘再録發表した。

土人ゴムの栽培面積、其狀況、將來に於て可能なる生産數量等に就て直接の知識を獲得する目的を以て、協會評議會は、本年一月幸ひにもテイラー(V. A. Taylor)スティーヴンス(John Stephens)の兩氏をして、土人ゴムの生産地として比較的重要な地域を歴訪し調査を行はしむることになつた。本書は、之等二氏が爲せる調査の結果を發表するものである。テイラー、スティーヴンスの兩氏は、ゴムの栽培に關する深密なる知識に搗て加へて、蘭領東印度土人に關する深密なる知識を有するの士である。依て協會評議員會は、兩氏の報告が、一般協會會員に裨益する所少からざるべきを信するものである。

一九二九年十一月

倫敦イーストチープ、アイドルレーン二四番地  
ゴム栽培協會

—

蘭領印度農商工務省

# 蘭領東印度に於ける土人ゴム栽培

## 目次

第一部	序論	一
第二部	蘭領西ボルネオ	一六
第三部	蘭領東南ボルネオ	三五
第四部	スマトラーラムボン州の部	五五
第五部	スマトラーバレムバン州	五七
第六部	スマトラーヂヤムビ州の部	七七
第七部	結尾	九六



# 蘭領東印度に於ける土人ゴム栽培

## 第一部 序 論

調査の由來、目的、方法 一九二八年の終りに、吾々(テイラー、ステイーンズ)は、ゴム栽培協會より、土人ゴム栽培の實情を視察する爲めに、蘭領東印度を訪問するやう委託を受けた。其れは主として、土人ゴムの栽培面積が近年急速に且つ著しく増加せることについて、諸種の報告が發表されたが、協會としても、一應實地見學をして置く必要ありと信じたることに基くものである。

吾等の旅行は、二箇月以上に亘ることは出来ないといふ了解の下に行はれたが、右期間内に於ける旅行の「プログラム」は、吾等に一任せられたのであつた。一九二九年三月バタビアに會遁し、相談の結果、二人で一緒に視察することを以て調査を有効にし得るものと信じた(此の如き決定を爲すに至つた理由についてはこゝに管々しく説明する必要はない)。而して土人ゴムの栽培區域で、蘭人が「外領」—爪哇の東及び北に亘る大なる蘭領の地域を外領といふ—と稱する地方は、頗る宏大

なる面積の水面と陸地とを包含するのみならず、調査の爲めに與へられたる時日が、餘りに制限せられてゐたために、吾々は、吾々の注意をば、外領の中で、最少量のゴムを生産する地域にのみ配ることが最も望ましいと考へたのである。

**調査の日取** 吾々は、蘭領東印度の四大重要なる土人ゴムの産地たるボルネオのポンテイアナ (Pontianak) バンチャルマシ (Banjermasin) スマトラのパレムバン (Palembang) チヤムユ (Jambi) をば、一九二九年の三月の始めから六月の中葉までの間に訪問した。其間に三週間半の日時がはさまつてゐる。其れは其三週間半の間は西部季節風の關係で雨が多く調査が出来なかつたからである。之のであるが、之等の四大重要産地は、蘭領印度に於ける土人ゴムの約七割を供給してゐる。而して、之等産地の各々について、詳しく説明を加へる前に、其のどれもにも通用するやうな豫備的説明を加へるといふことは、讀者をして本報告を、よりよく理解せしむることに役立つだらうと思ふから、次に土人ゴムの生産法について概略を記述することとする。

**一九二五年の報告** ゴム栽培協會幹事が、吾々に提供せる、土人ゴム調査委員會 (Native Rubber Investigation Committee) が、一九二五年に於て發表せる各種の報告は、吾々が現地に於て得た生産試験と、此種報告中に於けるものとを比較研究する點に於て (其外の點に於ても亦) 非常に有益なものであつた。

**土地の開墾** 土人ゴム栽培の特色を述ぶるに當り、吾々は先づ彼等の土地開墾の方法について述べなければならぬ。余等の訪問せる何れの地方に於ても、ゴム樹を植栽する目的の爲めにのみ土地を開拓する所はない。それは、始めから了解してゐて貫はねばならない。敷生代、否或地方に於ては、過去數百年に亘つて、スマトラ、ボルネオに居住する雜多なる馬來種族は、陸稻を栽培する爲めに、年々チャングル (森林) を斫開き焼拂つてゐた。而して、折角開墾したる地面に於て、彼等は一二回收穫し、然る後其土地を棄て、しまふ。棄てられた土地は、再び第二次生のチャングルとなる。一旦開墾したる土地が、第二次生のチャングルになるのは熱帶地に於ては、僅かに數箇月の間題である。第二次生のチャングルは、休耕地として七八年乃至十四・五年間放置せられ、再び開拓せられて米が栽培せられる。開墾が幾度か繰返さるゝ時は、開墾耕作の後に出來た矮樹林は、最初に出來た矮樹林の如くに生長が活潑でない。これは、土地の菲薄な地域に於て特にさうである。土地の菲薄な等の場所に於ては、矮樹はラン草に壓倒されて、其生長繁殖を阻止せらるゝこと屢々である。然し、原則としては、休耕地には先づ矮樹林が生じ、其れが後にはチャングルとなるのである。それでも、赤道の以南數度の地帯に於けるが如く、氣候が暑く且つ空氣が乾燥し、而も其暑さが年々回歸的に襲ひ來る所に於ては、ラン草は燒盡され、其爲めに出來掛けた矮樹林が、其發達を止めらるゝことがある。其結果として、或地方に於ては、廣大なるランの草原が目撃せら

る。之等ラランの草原を元の如き耕地にするには、ラランの根を掘つて之を退治するより外に方法なく、其れにはチャングルや矮樹林を開墾するより却て手が掛るので、土人はララン草原に手を付けるよりは、チャングルを開拓することになる。此の如くにして斫り拓かるゝチャングルの面積は實に廣大なるもので、吾等の踏査地域たる前述の地方に於ける家族の約半數が陸稻を栽培することしたならば、恐らくは、年々二十五萬英反より尠からざる森林又は矮樹林が、陸稻栽培の爲めに新に伐採開墾せらるゝであらう。

**測量の缺如** 踏査區域に於ては、土人は如何なる場合に於ても、栽培を行ふに當つて地權を獲得するの必要がない。蘭國政府がサルタンをして其の統治權を放棄せしめて以來、地方の政治は自治を本體とし、多くは選舉せられたる村長の下に立つ村會に依て行はれてゐる。而して、米を栽培する際に於て、土人農民は、該村長より土地開拓の許可を得れば可いのである。若し、一地方の土人が、或他の地方に於て耕作を行はんとする場合には、彼は其地方の村會に對し、少額の土地使用料を拂へば事足る。既に各地区に對する耕作者の權利といふやうなものが認められてゐないのだから、土地測量の必要がなく、土地測量圖などいふものは全然缺如してゐる。然し、ボルネオについては極めて良好なる地形圖―惜むらくは、多くは絶版である―が政府に依て發表せられてゐる。三十年乃至五十年前に發行されたボルネオのよりは、遙かに略式の地圖がスマトラに於ても發行されてゐる。スマトラに關係ある之等の地圖は、二・三の例外を除き近年殆ど改訂せられてゐない。従つて永久的作物の栽培區域、大道、小路の位置範圍を描寫する點に於て正確でない。

**土人作物の種類** 土人の行ふ永久的作物は、古々椰子其他の果樹、サゴ椰子、檳榔子、珈琲、胡椒等である。之れに、約二十年前ゴムが附加へられた。土人ゴムの栽培は、村内には行はれず、多くは村落に接壤せる荒蕪地に行はれてゐるが、一九二〇―二二年に於ける市價暴落の時まで、頗る堅實なる歩調を以て其區域を擴張した。栽培面積擴張の際、最も早く犠牲に供せらるゝのは米作地である。一九二〇―二二年の市價低落後ゴム市場が次第に活況を呈し、ゴム栽培業者の利益が増大するに連れ、平年なれば米をのみ耕作すべき開墾地に、土人がゴムをも植えることとなり、而も其れが今度は相當の規模の下に行はるゝことになった。多くの地方に於て、土人等は、米と、それからゴムを植えるために、村落の附近又は周圍に土地を取ることになった。之等の土地は、米作地としては必ずしも適當でなかつたにしても、ゴムには適當であつたし、其れに米の耕作を全然行はない譯には行かないので使用さるゝに至つたものである。斯くて、ゴム栽培熱は、一九二五―二六年に於ける市價の暴騰の際に於て其絶頂に達し、其後に漸次下火となつた。現今と雖も最近の耕作期に米を耕作せる所に、ゴムの植付をなせる所が、ちらほら見られないではないが、チャムピ地方以外はこんな所は少なく、全體の面積を加へても大したことはあるまいと考へらるゝ。



年級別ゴム樹 吾々が調査したスマトラ、ボルネオの地は、頗る廣大で、兩方合せると英蘭、威耳斯、蘇格蘭を合せたものゝ何倍かになる。一通り旅行するにも、數箇月の日時を必要とする。斯様な次第であるから、吾々は本調査旅行の際數百千哩を歩いたが、ボルネオ、スマトラのほんの一部を覗いたに過ぎず、何年級のゴム樹が、何處に何英反植付けられてゐるかといふやうなことは、勿論調べ上げ得てゐない。それで、是から先き數年間に於ける土人ゴムの生産可能量蓋然的の數字にあらず)を算出し、豫想を形作るに當つては、算出の基礎となるべき或尺度(其尺度は絶對的に正確ではないにしても、決して無理でないもの)を案出する必要がある。而して、吾々は、吾々の用ひ得る各般の材料に依て、一九二二―二八年に植付けられたるゴム樹の生産可能量算出の尺度として、次の如き表を採用することになつた。一九二二―二八年以前に植付けられたるゴム樹は大したことなく、特に論ずるだけの價值がない(譯者曰く、一九二三年以前と雖も、六・七萬噸位のゴムの産出はあつた。)

一九二四年	全植付面積の一割	一九二七年	同上の二割
一九二五年	同上の三割	一九二八年	同上の一割
一九二六年	同上の三割	合計	十割

ゴムの植付本數及び其手入 土人は、通例多數のゴム樹を植付ける。一英反當りの植付本數最低

三百最高五百位である(寫眞第一參看)。植付後發育の見込なきもの枯死せるものは、早期に植替をなす。最初は米と一緒に耕作するので米の爲めに行ふ除草は序でにゴムの手入れともなる斯くて樹は幸先よく生長する。最終期の米を收穫して後は、別に園の手入れといふものをしないから、矮樹やララン―地方の状態に依て、或所はララン、或所は矮樹が―が勝手に生える。手入れを施す所もあれば、



第一圖 土人園に於けるゴムの密植

施さない所もある。ゴムの値が下れば、大抵手入れなごしない。手入をする場合と雖も、高々ゴムの樹列に沿ふて、雜木雜草を切開く位がせいぜいである。然し兎に角多數の樹を植込むので、樹木が生長すれば、濃厚なる陰影が其れが爲めに生じ、雜木雜草の繁茂を防ぐ。斯の如くにして、約九割が成熟期に到達する。植込みが上記の如く、濃厚であるが爲め、土人ゴムは、歐人式ゴム園の其れに比し

生長が或場合には一年、或場合には四年遅れる(土地の良否に依て)。然し、生産時期が遅れることか  
いふ時間の問題は馬來人に取ては問題ではない。

**生産量の問題** 樹齡何年に達し、どれ位木が大きくなつた時にタッピングを始むるかといふこと  
は、一般的には言はれない。其れは市價の高低に依て左右せらるゝ。産額について言へば、無茶苦  
茶に密植してある關係上、タッピング(切付け)を始めてから最初數年間は産額が多い。土人ゴムの  
總體の生産額を算出する基礎として、吾々の集め得たる尺度は大體次の通りである。

樹齡	一英反當りの 産額(封度)	一噸を生産するに必 要なる面積(英反)
五年生	三〇〇	七・五
六年生	四〇〇	五・六
七年生	六〇〇	三・七
八年生	七〇〇	三・二
九年生及び九年生以上	八〇〇	二・八

**歐人式エステートとの産額の比較** 右に擧げたる一英反當りの産額を、相當成績を擧げてゐる歐  
式エステートの其れに比較すると如何にも産額が多いやうに見える。否、多過ぎるやうに見える。  
然し、假りに、一本當りの産額を歐人式エステートの其れに比較すると、全く反對の結果になる。

歐人式エステートに於ては、八年木が一年平均四封度しか生産しないといふことになれば、其れは  
どちらかと言へば出來が悪い方である。然るに、一英反三百七十五本を植えてゐる土人ゴム園に於  
ては、八年木は、年々僅かに平均二封度以下を生産するに過ぎないであらう。其れのみならず、此  
一年二封度以下  
のゴムを得んが  
爲め、土人ゴム  
園に於ては、最  
も深い切込みを  
なし、多量の樹  
皮を切取るので  
ある。今日一般  
に知れ渡りつゝ  
命を短かくすることになる。

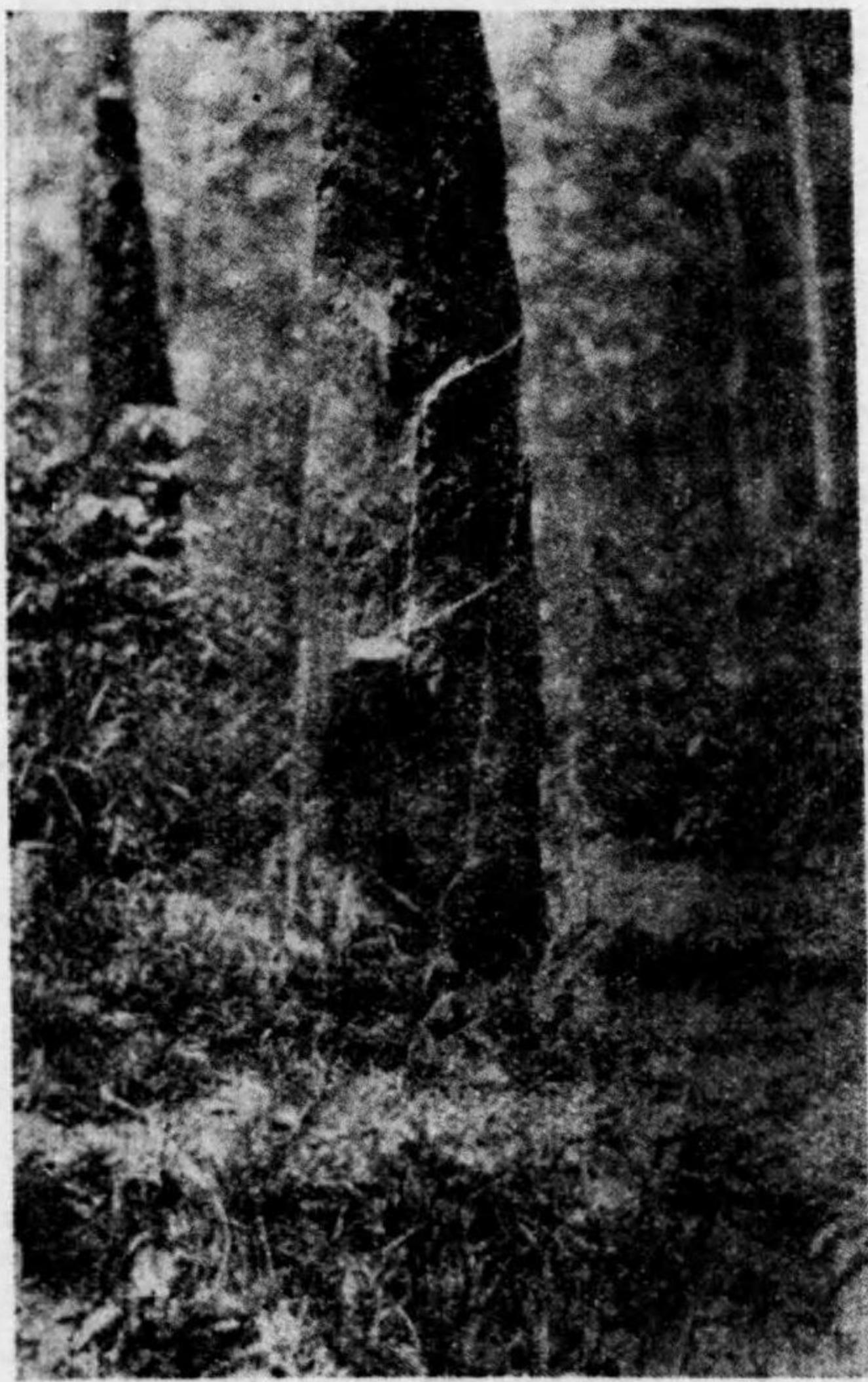


第二圖 第一無理な切付

ある所に依れば  
切込みの深さこ  
ゴム液の浸出量  
この間には、正  
比例的相關現象  
がある。然し、  
切込みを深くす  
ることは、結局  
は、樹の生産壽

大體、採液夫と園主との収入の分配は、何れの地方に於ても大抵五分五分といふ標準で行はれて  
るので、現在に於けるゴムの市價を以てして、採液夫に充分の報酬を得てゐると思はしむる爲め

には、一日少くとも四乃至五封度の乾燥ゴムを生産するに足るだけの汁液を得せしめねばならぬ。否、一日五封度のゴムを生産することに依て生ずる自分の持分を以て相當な収入と考へるであらう。五封度に相當する液汁といへば、少なからざる數量であるから、自然切付の場合にも深く且つ餘計に切ることになる。切付を深くしても、採液の範圍を擴大しても、到底右に擧げた數量だけのゴムが生産せられないことになる。採液作業は間歇的となり、遂には全く中止せらるゝに至るものである。全然中止せらるゝといふことは、但し、減多に起らない現象である。



第三圖一以上切付だけ新皮

**切付 (Tapping) の方法と樹皮の恢復** 特に奥地に偏在してゐる所は別として、處女的樹皮に加へらるゝ最初の切付は、其れに依て生ずる切傷に關する限りに於ては、通例無理だとは言はれない。大抵は樹幹の半分を切り、切方もさして悪くない。樹冠も樹の大きさの割には大きく、其生育狀況も

活潑であるから、樹皮の更新も豫想通りに迅速に行はれてゐるものと想像することが出来る。併し前項述べた様な次第で、無理な切付をするので、勢ひ充分更新してゐない樹皮に向つて第二回目の切付を行ふことになる。普通二年内外で新たな切付を行ふことになる。従て、此第二回目のタッピングは、樹の木質に向つて無数の傷を加へるといふことになる。土人は、第二回目のタッピングが行はれてから、數年後にして、第三回の切付を行ふのであるが、其際には、樹の保存上第二回目の時よりは一層有害なることをする。即ち普通一線だけの切付けで充分に液が出て來ないと思へば(又事實充分に出て來ない)液の出て來さうな方向に向つて、第二線第三線の切付けを行ひ、其れに依て埋合せしやうとする(挿圖第二)。此の如き方法を以てしても十二年木位の所までは相當數量のゴムを生産し得ることになる。其れから以後はどうか。大體土人ゴム園と歐式ゴム園の間に於て採液の標準について、それだけの開きがあるかを慥むる方法がない。土人が、樹皮が更新し、再び切付を行ひ得ると考へてゐるものは、歐人式ゴム園經營者の立場から見れば、タッピング出來ると考へられぬ場合が多い。併し土人の如く、後の結果を構はず、いくら傷付けても液が取れさへすれば差支へないといふのであれば(第三圖参照)、タッピングが全然出來ないといふ場合は起り得ない。けれども、土人ゴムは、六・七年間タッピングを繼續すれば、其後は採液量が著しく減退して行くことは疑はれない。然しタッピング開始後何年目位から、一年どれ位づゝ採液量が減少する

かといふことについては、斷案を下すに足るだけの材料がない。馬來人はゴムの年齢を知ること稀である。又彼等は樹を密植し、其爲めに土人ゴム園の樹の發育は後れてゐるから、歐式エステートの樹と樹齡との釣合を以て、土人式ゴム園の樹齡を判斷することは出来ない。それで、六・七年タツピングした後、土人ゴムの生産量が年々どれ程減少して行くかの問題について、吾々の言ひ得る所は、生産量の減少が一年約一割内外であらうといふことである。此一割といふ數字の中には、切付の拙劣と病蟲害に依る生産額の減少が共に含まれてゐる。將來に於て可能なる生産の數量を割出すに當り吾々は此一割といふ數字を用ひた。

**病害蟲** 土人所有のゴム園で全然病氣に侵されてゐないのは稀である。根菌の病 (*Fomes lignosus*) は、此種土地に待設けらるゝ如くに一般的流行を見ない。土人ゴム園は、屢記の如くチャングルを少くとも二度以上開拓したものが多く、一體ならば此種病氣には侵され易いのである。*Fomes* 病は吾々の屢々見たる所であるが、馬來半島よりは、乾燥期に於ては、空氣が一層乾いてゐるせいから、該半島の如くひどく侵されてゐないやうである。

バンヂャルマシンは例外であるが、古いゴム園、更に詳しく言へば、一九二〇年以前に植付けたゴム園の一大部分に於ては、前記 *Fomes lignosus*, *Fomes pseudo-ferreus* 等の根病が著しいやうである。第四圖(第十五頁)にあるやうに、一乃至三英尺の林木の悉くが死にかけてゐるか、死んでしま

つてゐるのがある。一般土人のゴム園に就ては、此種病氣の爲め、産出量の上にとりだけの影響を蒙つてゐるかといふことを計數的に確めることは困難である。然し、土人ゴム園は、一般に密植してあるが爲め、樹根が自他とも複雑に交錯してゐるから、根病も次第に蔓延してゐるといふことは言はれるであらう。一九二四―五年中土人ゴムの調査を行ひ、一九二五年之を發表せる土人ゴム調査委員會の報告編纂者は、根病の存在を認識してゐたが、其れが經濟問題とする程重要なものであることは考へてゐなかつた。然し、以前植付けたゴム園は、大抵根病に侵襲せられる時期に到達してゐるし、其れにも拘はらず、土人は、之に對し何等對策を講じてゐないので、土人ゴムが今日の如く比較的根病を病むでゐないといふのは、寧ろ不思議と言はざるを得ない位である。加之、ララン草及び矮樹の繁茂せる數回開墾せる區域は殆んど根病に侵されてゐない。又最も古いゴム樹は、村落に極めて接近せる所、又は屢々面倒を見てゐる土地に植付けられてゐるので、之等は又餘り根病の害を蒙つてゐない。

樹皮に生ずる *Brown bast* 病は、土質の不良にして發育の悪い所でない場所ならば、どこでも發見せらるゝ。土人の行つてゐる無理なタツピングの方法を以てして、尙ほ且つ此病氣に侵されないとしたならば、其れこそ不思議である。歐人園に於ては、かゝる皮膚病に侵されてゐる樹は、タツピングを休止するか、相當な手當を施すのが例である。馬來人は之に反し、病氣に罹つてゐても切

付を爲す。充分恢復してゐない樹でも、汁液の出さうな方面にナイフを向ける。此の如き方法を永く續けてゐる中には、土人の様な無理な切付方をしても尙ほ引合はぬ程度に、液汁の出る分量が減る。這般の消息は、古い土人のゴム園に於て、瘤と結節に充ちてゐる多くの樹のあるのを見ても窺ひ知ることが出来る。然し、樹皮が充分恢復しない先きに、タツピングを行へば其處に必ずブラウン・バスト病を生ずるかどうかいふことに就ては確證が擧がつてゐない。

採汁した後の皮に、黴腐(Mouldy rot)を生ずることは、バレムバンに於て吾等の認めたる所であるが、其病氣に酷似せる害菌を、吾々はボルネオに於て見た。然し、馬來人のいふ所に依れば、此種害菌は乾期には消滅する。又事實、此種菌類又は黴腐に由る害は、馬來半島に於けるが如くに重大ではない。

生産可能量の計算 吾々は、本書の結尾に、來るべき五年間に於て、吾々の調査區域に於て生産せらるべきゴムの數量を算出してゐる。然し、現在に於けるゴムの相場(一封度九片乃至一志)では其數量だけ産出するやうに至るとは考へられない。

チャムビは別だが、其他の地方では、一封度一志の相場なら産額は次第に増加するであらう。但し、増加の割合は分らない。分らないが、兎に角増加し、相場が一封度六片になれば、而して勞力さへ充分であれば、吾々が生産可能量と見積つただけのゴムがチャムビ以外の地方に於ては産出

せらるゝであらう。而して、チャムビ以外の土地即ちボンタイアナ、バンヂヤルマシ、バレムバンに於ては、植付けられてゐる總てのゴム樹を切付けるに必要な土人勞力の供給が地方的に得られないとは考へられないのである。

チャムビは事情を異にしてゐる。大體チャムビが是迄最大限度までゴムの生産を行つたことがあるかどうか疑問である。同地に於ては、植



第四圖 根菌病に侵され居る園

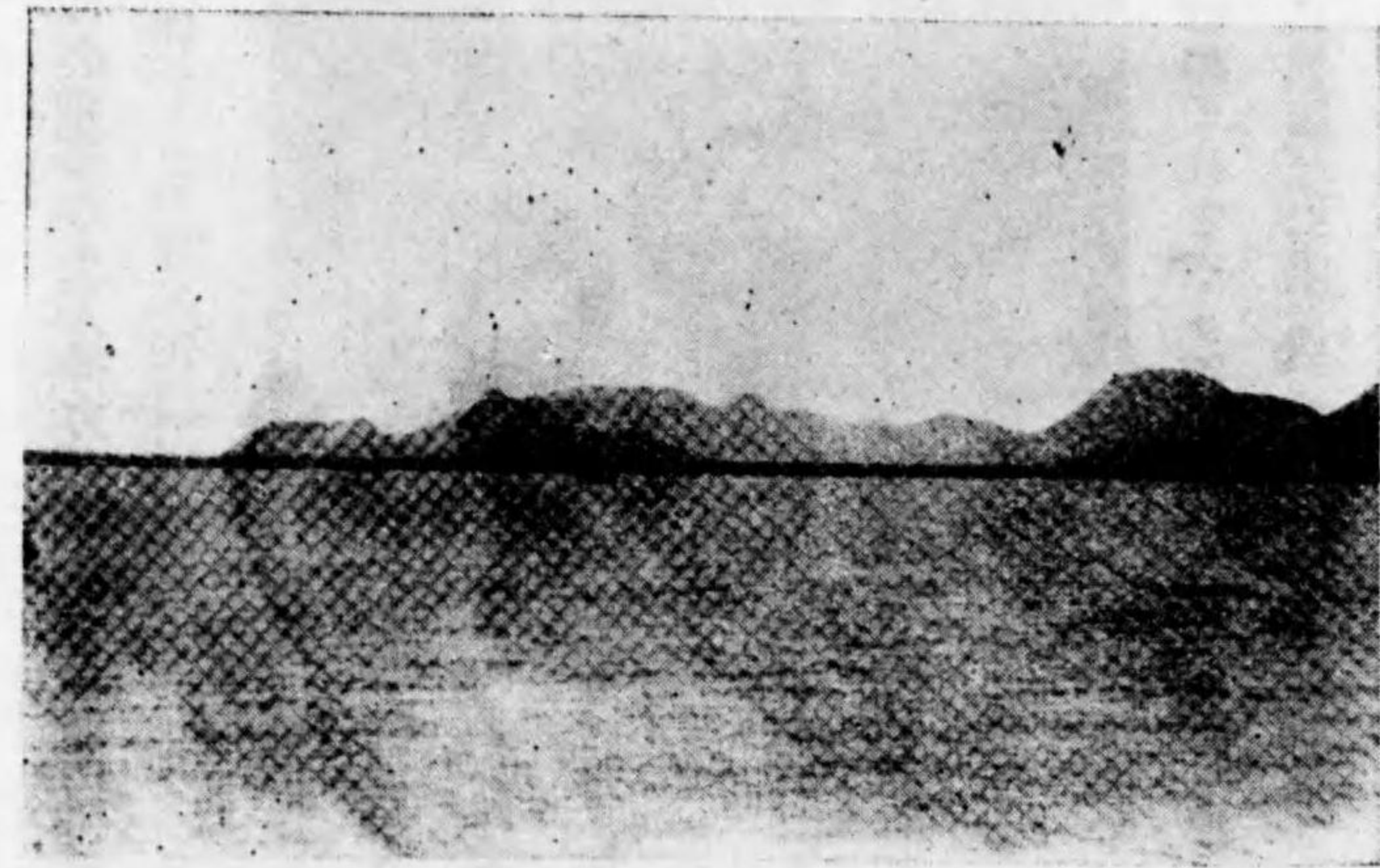
付面積に比し勞力の供給が足りないから生産の充分でない園はタツピングを止め、産額の多い方面にいつも切込んで行つてゐる。従つて一時

休息を與へられた不良園は樹皮の更新を行ひ、再び切付け得られるやうになる。吾々の集め得たる知識を綜合して考へると、ゴムの相場が、一封度二志位に昂騰せぬ限り、全局面の切付を行ふに必要な勞力が、チャムビに引付けらるゝものとは思はれない。

## 第二部 蘭領西ボルネオ

地理及び地形 蘭領ボルネオは、ボルネオといふ大島の四分の三の面積を占め、北に英國の領土保護領たるサラワク、英領北ボルネオを控へ、其南方に位置を占むる二つの州よりなる。ポンティアナを首都とする西ボルネオ州は、蘭領ボルネオの西岸に位す。該州は五八、八三八平方哩の面積を有し、總面積に於て、英蘭及び威耳斯より稍大きく、約六百哩の海岸線を有す。

主山脈が蘭領ボルネオと、英領ボルネオとの境界をなしてゐる。此主山脈から、幾多の支脈が出て居り其中二三のものゝみが海岸にまで到達してゐる(第五圖参照)。海岸には平均約四十哩の平地帯があり其れが前述の支脈に依て、幾つかの三角形地區に分たれ、二支脈の間に横はる三角形地區の中央の幅は百五十哩で



第五圖 海岸の平原に接する山脈

あるから、各平地の總面積は大約六〇〇〇平方哩に相當することゝなる。此平地の一を通じて、カプアス(Kapuas)といふ大河が流れ、此河は海岸に近き所に於て、多數のチャンネルに分れてゐる。而して、農業上重要な三角洲を形作つてゐる。西ボルネオ州の首府ポンティアナは、之等チャンネルの一つの上に立ち、KPM汽船會社及びストレーツ・ステイムシップ汽船會社の汽船が定期に此地に寄港する。カプアス河は、延長七百哩に達する壯大なる河で、水量頗る豊富に、河口より百哩の地點でも尙平均二分の一哩の河幅を有してゐる。カプアスより小なる河流が、其南にくつか流れてゐる。カプアスの北にサムバス(Sambas)といふ大河が流れて居り、大體に於てカプアスと同様の地形を示してゐる。サムバス河に従ふてサムバス町がたつてゐる。此處には、前記KPM汽船會社所屬の淺吃水船が、殆んど全くゴムよりなる商品を積取りに来る。

地圖を瞥見すると、西ボルネオの海岸は、悉くスワンプであるかの如くに見ゆる。然し、實際はスワンプもあるには大いにあるが、馬來半島の西海岸の到る處に於て見るが如き海岸地帯を示してゐる。即ち、膏沃なる灰色粘土が大部を占め、只泥炭層がチラホラと其れに加味されてゐる。馬來半島の西岸よりは海岸に於て、より高く、より頻繁なる砂丘が連亘してゐる。西ボルネオの特色は干満の差が非常に少ない(僅々二呎に過ぎない)ことで、其爲めに馬來半島に於て見るが如く高いフリーボード(干潮の時の潮の高さと満潮の時の潮の高さとの差)がない。然し、平原は、海岸に向ふ

に従ひ、幾らかづゝ低くなつてゐるので、浅い排水溝ならば掘ることが可能であるし、掘つた排水溝はゴムの如き深根植物に對しても充分に有効である。これは、一面に於て、ゴム樹が、周圍の状況に一致するといふ適應性にも依るものである。西ボルネオの平地が、ゴム樹のみならず、一般作物の適地であることは、帶狀をなせる數百哩に亘る園に於て、ココ椰子樹が、最良の發育をなせることに依ても之を觀取することが出来る。

山手の方は、海岸地に較べて、勿論土質が劣等だ。馬來半島の東海岸の多くの部面に於て見るが如く砂質である。海岸に近き平地に於けるよりは、ゴム樹の發育も劣つてゐる。加ふるに、土地の浸蝕が甚だしいので、馬來人が有意的に或は無意的に一般に行つてゐるやうに、雜木雜草を繁茂せしめなければ、表土の流失を防ぐことが出来ない。大體、此山手の丘陵地帯は、米作の爲めに使用されてゐるもので、處女林を伐採開墾後、土人は一・二回米を作り、其後は自然の爲すが儘に放任する。然る時は、熱帶地の常として數週間にして、再び通過し難き第二次生の密林となる。七乃至十五年の後、土人は米作の爲め、此第二次生森林を開墾する。

人 口 西ボルネオ州の人口は七十萬内外である。して見ると、一平方哩當りの人口は十二人になる。七十萬の人口中、九萬は支那人で、残りの六十萬人以上が歐洲人 歐亞混血人、ダイヤク人各種の馬來人である。歐洲人の此地に住する者は七百人である。

支那人の中には、二三百年前移民として本國から移住した者の子孫を含む。其外にも、其以後今日に至るまで、續々と渡來した者が多數にある。彼等支那人は、西ボルネオに於ける彼等の住地を支那領土の一部と考へ、和蘭人と其所有權を争つたものである。馬來人はダイヤク人を追ひながら奥地へ奥地へと侵入し、今日では可成りのヒンタラランドにまで這入つてゐる。而して或者はダイヤク族と雜婚してゐる。

此處に注意すべきはマドウラ人である。マドウラ人と言へば、東部瓜哇の海岸に近き、人口稠密なる島の住民で、過去數世紀に亘り、不思議にも小型帆船を以てポンティアナと交通し、其處に相當の根據を持てゐる。マドウラから、帆船にてポンティアナに到着するには二週間を要するのである。

氣候 西部ボルネオは、赤道直下に位するが爲め、氣候の變化に乏しき馬來半島よりも、尙一層氣候の變化に乏しく、四時同一の氣候であると言ひ得る。但し乾雨期等は、大體に於て馬來半島と同一である。

降雨量は頗る多く、且つ規則的であつて、雨量の平均は、一年百三十吋である。大抵毎日午後以降雨あり、最も乾燥せる時期は六月から八月に亘る時で、其時分にゴム樹は普通落葉すると土人は吾々に話して呉れた。

交通 地形に關する上の記事からして、讀者は西ボルネオに於ける運輸交通は殆んど全く水路に依て行はねばならぬことを推察すること出来るであらう。又事實多くの河川があつて、緩漫ながら西ボルネオの殆んどあらゆる地點に到達する便宜を與へてゐる。陸上の道路といふものは、地圖製作者の頭の中にあるに過ぎず。其れとて、今の所は、高々一列行進に適する位のものに過ぎない。

ポンティアナ市から南の方に、數哩間自動車の通ずる(時として)一道路がある。他の道路が海岸に沿ふて北の方サムバスに延びてゐる。此サムバスへの道路は、過去三十年間に亘つて、時折開設に努力し、一九二五―六年のゴム景氣の際には自動車を走らせることになつたが、到底使用に堪へなくなつた爲め、大部分自動車道路としては閉鎖されてゐる。此道路から奥地の丘陵地帯に向つて所々に枝道が付けてあり、濕地の部分を横切る爲めに自動車をを用ゆることが出来る。

此地方には鐵道は一哩もない。鐵道築設の爲めに爲せる探檢旅行の結果は、少くも當分は鐵道開設の必要がないといふ結論を齎したやうである。

蘭領の地方には、道路橋梁の構築等の爲め、地方の住民として一定の限度内に勞役を無償で提供せしむる公役の制度が行はれてゐる。公役には、壯年の男子は皆従事せねばならぬ。公役を拒む場合には、其れに相當する課金を支拂はなければならぬ。公役の制度を利用して、政府は今や馱馬

を通ずるに足る道路を必要の箇所に開設中である。然し、西ボルネオ全體としては、何等道路系統などいふものは計劃せられて居らず、只郡長等の地方官が、各地方に於て徵發し得る勞力を利用して、思ひ／＼に道路を作つてゐるのみである。而して、道路の出來ると否とは、各地方に於ける勞力の有無多寡に依るものである。

此地方の作物 ゴム栽培の久しき以前からして、地方の土人支那人は、ココ椰子、檳榔子、阿仙藥、胡椒、サゴ椰子等の栽培を行ひ、現に相當の規模に於て之が栽培を行ひつゝある。栽培物以外の産物としては、諸種の林産物がある。其中テンカワンと稱するは、商人仲間では、イリペ・ナツツと呼ばれてゐるもので、大木に生長し、高級の植物性脂肪を採る原料として重要視される。前記作物の作付面積は、市價の高低に影響せらるゝこと甚だしく、一概に何英反であるとは言ひ悪い。而して、吾々の聞き得たる所に依れば、海岸の平地にある檳榔子園サゴ椰子園―之れは米の如き年作物と異なり、ゴムと同じく長期作物である―の或物は、過去數年間の中にゴム林を作らんが爲めにつぶされたといふことである。

西ボルネオ地方は、需要せらるゝだけの米を地方的に産出し得たことがない。水稻は、或程度まで昔から支那人に依て耕作されつゝある。然し、山手の方、及び海岸地方に於て、土地の伐採開墾をなすのは、其れは一二回陸稻を作るが爲めであつて、一九二四年頃からは、其後に大抵はゴムを



植付けてゐる。地方に於て需要せらるゝ不足米は、主として新嘉坡から輸入せらるゝもので、新嘉坡との間には一週二回の定期船があり、来る時には米を歸る時には地方の物産を積んで行く。

**ゴム園の種類其他** 長途の旅をするには、交通機關が不完全である爲め、便利が悪い。例へば吾々の一行はカプアス河を、百六十哩溯江するに三日を費した(其れはあちこちの村落に立寄つたせいでもあつたが)。斯様な次第で、例へば西ボルネオ全部に於ける新舊ゴム園の面積の比較等重要な問題に關しても、此處彼處で、有識者より集め得たる材料を基として斷案を下すの外はない。但し、吾々が、各種の土質を對象として各代表的なゴム園の全部を通觀したことは躊躇なく言ひ得ると思ふ。

西ボルネオのゴム園は、前述せる如く、主として海岸の平地ゴム園と、山手のゴム園との二種類からなつてゐる。之等二種類のゴム園中には、所有權こそいくつかに分れてゐるが、數百英反一續きに、純粹にゴムのみ植付けた區域がある。此二種類の園に對し、第三種のゴム園として、低平なる河岸の此處彼處(往々にして數哩を隔てたる)に植えたる小面積のゴム林を擧ぐる事が出来る。

此種ゴム園の多くは、雨期に河が増水すれば、一部分水に浸されてゐる(第二十四頁第六圖參照)此地方では、現にタツピングを實行しつゝあるゴム樹と新園のゴム樹との間に、一見して分る年輪の相異がある。其れは一般が、一九二〇年から同二十四年に至る所謂不景氣時代に、ゴムの植付

を殆んど全く中止したことに因るもので、一九二四年からは、弗々相場が昂騰し始めたためブーム時代まで旺んに新植が行はれたのである。内陸のチャングルに年々數箇月の視察旅行をなすことを職務の一となす一蘭人官吏は、吾々に告げて、奥地のダイヤク族は、年々陸稻を耕作する爲めに開拓する僅少の土地にすら、ゴム樹を植込むことを最近のブーム以後始めたと言つた。山手に職務を奉ずる或他の蘭人地方官は、彼の管轄区域内に於けるダイヤク族の六割は、數本數十本づつではあるが、ゴム樹を植付けてゐると語つた。ダイヤク族の小部落は、チャングルを以て覆はれたる奥地を通じ、數百を以て數へられるのである。不幸にして、吾々の旅行の組織が、此の如き奥地に這入るには不適當であり、且つ、之等奥地に這入る時間も持合せなかつたので、實地檢分が出来ず只話を聞くに止めざるを得なかつた。又一々のゴム園の面積と、其樹齡とを實際に測定するの便宜も缺き、爲めに、將來の產出額に關する見込を立つる上に於ては、本書序論に掲げてあるが如きスケール(第八頁參照)を用ひざるを得なかつた。

吾々が實地檢分したる所と、吾々が有識者當路者に聞いて得たる所とを綜合して考へると、一九二四年以後植えた、所謂新植ゴムの作付面積は、現に成熟せる採集可能の面積の三倍より少くはないであらう。

**ゴム園の手入管理狀況** 西ボルネオ州に於て植付けられてゐるゴム樹の數は、一英反當り三五〇



第六圖 一 部浸水せるゴム園

乃至四五〇本(三米四角)平均三八五本である。

土人が特にゴムのみ植栽する目的で、土地を開墾するといふことは殆んどない。あつても其れは、問題にならぬ程の小面積である。大抵はゴムと米との混植であつて、米に手入れをする關係で、除草其他の手入れも始めは比較的完全に行き、發育不良又は不能の樹は植替えが行はれる。一・二回米を收穫して後は、手入れが充分でない爲め、雑木が繁茂する。雑木は、年に一・二回刈り、ゴム樹に沿ふて伐採せらるゝこともあれば自然の儘に放任せらるゝこともある。米の收穫後、ラン草に侵されることもあるが、種子の給源となるベキ草原の範圍が尙末だ廣くないから、ラン草が非常に繁殖跋扈することはない。雑木の制裁を、土人がこの程度に於て行ふかといふことは、ゴムの値段が上るだらうとか下るだらうとかいふ豫想又は現實にゴム

の値が良いか悪いかに依るのである。例へば雑木が生えても、植込みの密なる土人ゴム園に於ては、樹木の生長に連れ陰影が濃厚になるから、雑木は遂に壓倒せらるゝことになる。

土人はゴムの栽培を爲す前に、又は其れと同時に、一、二回米又は他の作物を耕作するので、根菌の竈は大抵其時代に滅盡されてしまふから、根菌の病に侵さるゝこと割合に少ない。Pink disease は、蔓延區域が相當廣いが、急性傳染病的に蔓延するものとは思はれない。反之、前記根病(*Fomes lignosus* & *Fomes pseudo-ferreus* も共に)は、老成せるゴム園には、眼に付く程廣まつて居り、此種ゴム園にして、多少の程度に於て根病の害を蒙つてゐない所はない位である。一乃至三英反位のゴム樹が此病氣の爲めに、全部枯死してゐるか、今將に枯死せんとしつゝあるかといふ所もある(第二十六頁第七圖參照)。一九二五年中、ドクトル・デ・ロース(Dr. De Laos)は、其調査報告中に於て、該根病の恐るゝに足らざることを述べてゐる。之に依て見れば、此病氣は、其後著しき發達を遂げたものと見ねばならぬ。而して、今日土人栽培家は、病樹に手當もせず、豫防の方法も特別に講じてゐないから、此病氣は將來一層其の勢ひを逞ふものと考えねばならぬ。然し、此等病菌害に依る生産額上の損害が、如何なる數字になつて現はれて來るかといふことを決定することは、むづかしい。が、一土人栽培地にある四乃至五パーセントの樹が、此等病菌の爲めに破壊されてゐることを見た。

白蟻はチャングルを焼拂つた後に、腐蝕せる大木の切株のある所には、どこにでも発見せられた。白蟻害を蒙つてゐる木は、既に根病に侵されてゐるものに多い。

Brown-Less 樹皮病は、土人園に於ては氣を付けてタツピングを行つてゐる歐式エステートに於けるよりも一層猖獗である。此病氣の爲め、各土人園に、可成り多數の結節と瘤とを有する樹木を見る。然し、此病氣



第七圖一河畔に於て枯死つるあゝるム

に罹つてゐても、土人の搾れるだけ搾るといふ、強制的タツピングに依て、尙暫らくは或數量の液汁を搾り得る。

一見黴腐病(Mouldy rot)に似た一種の害菌が、此地方に於けるゴム園には一般的に見られる。然し、吾人の調査したる範圍に於ては、此菌はゴムの生産額を減少するほど有害ではない。

切付法及生産量 海岸地帯及び江河の河畔では土

地が膏沃であるが爲め、粗雑ながら手入さへなされて居れば、四・五年生の樹木に對して切付を開始し得る。然し、山手で土質が其れ程良くない所では、六・七年經過せねば、タツピングを行ひ得る程に樹幹が大きくならぬ。

新木に對し土人は樹幹の半周をV形にか、螺旋狀にか切る。而して、老木で收量が少く切付を行つても、多く効果を期待し得ないか、或は勞力が不足し、爲めに時を隔つるにあらすんば到底切付をなし得ない場合の外は、間斷なく切付を行ふを常習とする。處女皮に對する切付は、概して良好、從て恢復も相當に早い。只切取る皮の厚味が餘りに分厚く、一箇月切付の高さが、大方三吋を下らない。土人は、一旦切付けられたる樹木が充分に其皮膚を更新するのを待たずして再び切付を行ふので、木質を傷け生産不能に陥らしむることが頻々として之れある。ラテクスの出方が少いと、其理合せを爲すため、彼等は、ラテクスの出さうな方向に向け傷を付ける。

一人一日の切付本数は、平均三百七十五本である。而して、吾々は、吾々の調査せる地方では、平地でも山地でも其他どこでも、實地に一人一日の生産額を試験したのであるが、其れは平均五封度(乾燥ゴム)であつた。此數字を基とし、更に樹皮が恢復してゐない爲め、或は Brown Less の爲め、病氣其他の原因の爲め、園内の立木の三分の一は切付を行つてゐないものとし、更に一年の切付日數を三百日として計算を行ふと、一年一英反の生産量は一千一百封度である。然し、吾々は旅行の

際、植付面積の只僅かに一部分を見たといふに過ぎない。而して、西ボルネオでは、朝の切付時間に降雨を見るといふ様なことは殆んどないにしても、一年三百日の切付日数は多きに失するかも知れないから、此地方に於ける一年一英反の収量を八百封度以上に見積ることは危険である。此點から考へて、ドクトル・デ・ロースが、一九二五年に爲した調査は興味あるものである。同氏は、一英反一年の産額を一千封度と計算してゐる。又ポンティアナ市に於ける州政府土人農業指導部が、一八二八年十一月から翌年二月まで、海岸の平地に於て、歐人式タツピングと、土人式タツピングとを比較研究したる所に依れば、年産額に於て土人ゴム園が歐式エステートより寧ろ優つてゐるやうに見える。此研究は今少しく繼續せらるべきであつたが、何等良好なる目的が其れに依て達せられないといふ理由を以て、不幸政府の命令に依て中止せられた。

一九二八年に於ける此地方の生産可能量は、大約一萬九千噸である。今之を前節に述べたる生産額に依て面積に引直すと、五萬三千英反の生産面積があることになる。而して、假りに新規に植付を行つた面積が、前に説いたやうに、現在の生産面積の約三倍に相當するといふことが正しいとするならば、新舊ゴムの植付總面積は二十一萬二千英反になる。然し、將來に於ける生産可能量を計算するに當つて、二十一萬英反といふ數字は大に失するかも知れない。何となれば、過去二年間に新に植付けられたゴムは、恐らくは其一部分しか成熟期に達しないであらうから。土人等は最近ゴ

ムの相場が不勢であるのと、一方新植したゴムは居村から一般に遠く隔たつてゐるので既に手入を疎にしてゐる風がある。又遠隔の地にある新設園は、氣候の濕潤なること此地方の如き處に於ては、火事に見舞はるゝことは全くないにしても野鹿等野獸の害は相當受けつゝあるものと見ねばなるまい。

#### 製造法及び取引方法

ゴムの製造には殆んど總ての場合凝結用として朋礬を用ひてゐる。而して各種のゴムが製造せられてゐる。充分スモーク作用を施したシート、スモーク不良のシート、半乾きの板、濡れ板、種々な方法を施して作れる日光乾燥のシート等々。併し、米國向きの所謂ブランケット護謨の製造に従事する工場が、サムバスに二箇所、ポンティアナに六箇所(一箇所は最近閉鎖せられた)設立せられたから、土人等は人工的にゴムを乾燥することの無益なるを自覺し、之を廢止するやうな傾向を辿つてゐる。數百英反のゴム園を所有し、最大の土人ゴム栽培業者として知られたる一馬來人は、ゴムの買手がスモークドシートに對し、之を製造するに必要な費用を拂はないから、久しき以前から濡れ板を製造する昔の方法に返つてゐることを吾々に告げた。

ポンティアナ、サムバスにある前記の工場は、濡れ板を買取り市場に於て、ブランケット・クレブと呼ばれる所の分厚のクレブ(是れは、新嘉坡に於て製造せられる分厚のクレブと大同小異)を製造する。別にパーク、ストラップを利用し、同様分厚ではあるが、下等品で殆んど黒色に近いク

レブをも製造してゐる。此の如くにして製造せられたる粗製ゴムはバタビアを通過して米國に積出さる。聞く所に依れば米國のゴム製造會社は、之等原料ゴムの買付けを爲すため、一名の代表者をポントイアナに滞在せしめてゐる。然し、濡れゴムの可成りの數量が、間斷なく新嘉坡に輸出され、同地の工場に於て精製ゴムとして再製せられてゐる。

土人ゴムの買付には、土人自身、亞刺比亞人も或程度まで關係してゐるが、大方は支那人の手に依てなされる。河の上流又は海岸地方のゴムは、船便に依てポントイアナに運搬され此處にて金に換へられる。ポントイアナは多數の水路に依り各方面と連絡してゐるから、運送は容易且つ便利である。ポントイアナに於ては、商人は毎日海底電信で新嘉坡に於けるゴムの相場を知り、ポントイアナの相場は、更に電信に依て諸方に傳へられる。とは言へ、地方にポントイアナの如きゴムの市場があるといふ譯ではない。地方奥地には支那商人が、第八圖(第三十一頁)の如きモーター、ボートに、大型の屋臺船を、時としては兩方に括り付けたるものを以て、どこまでも湖江して買ひに出る。彼等は必ずしも金錢をのみ支拂はない。否、ゴムの大部分は、物に交換の方法に依て賣買せられる。支那人は仲買としての普通の利益を取る外、目方を誤魔化すので、彼等の實際の買値は市場の相場より、いつも遙かに低いといふことになる。例へば、吾々が西ボルネオに滞在せる時の倫敦相場は乾燥ゴムが、一封度約十一片であつたのに、支那人が奥地に於て買入れてゐた値段は、

五片四分の三乃至六片二分の一に相當するものに過ぎなかつた。此大なる値段の開きは、奥地からポントイアナ其れから倫敦下りへの運賃、粗製工場諸掛り工場の收得すべき利益、五バーセントの土人ゴム輸出税、ゴムを買入れてから賣渡し、引渡す時までの間に於ける相場の動搖と之に伴ふ危険の外、支那人仲次人の收得すべき、少からざる利益を含んでゐる。

**勞力竝に將來に於ける産額** 西ボルネオ州では、馬來人自身は、自ら所有するゴム園に於てタツピングを行ふこともあるし、行はないこともある。然し、其代りダイヤク族がタツピングを覺へて雇はれる。であるから、極めて少數の例外を除く以外、此地方で勞力不足の爲め、タツピングが出来ないといふことはない。事實到る處に於て、馬來人園主の子供等が、父又其他の持主の爲めにタツピングを行ひつゝあるのを見る。



第八圖 - タ - モ - 付 屋 臺 船

又爪哇苦力で、歐人式エステートとの契期期限を終り、引續き此地方で土人園に働いてゐる者もある。多數支那人の住居する區域では園のスケールも馬來人の其れよりは遙かに大きい。而して、其處に雇はれてゐる苦力は殆んど皆ダイヤ族である。吾々が調査すること出来なかつた一支那人園では、支那人がタツバーをして働いてゐるといふ話を聞いたが、他の支那人園で支那人を苦力として使用してゐる所はない。ボンティアナの諸港は、前に記載せる如く、マドウラの帆船に依て見舞はれるから、仕拂ひさへ良ければマドウラ人を土人式ゴム園の労働者として引付けることは困難ではあるまい。

タツバーへの仕拂ひは、普通五分五分制度(バギ・ドゥアといふ)である。然し、園主が汁液をタツバーから買取つてゐる所も屢々見受けられる。一部分米で苦力賃の仕拂ひをしてゐる所もあれば一日六十仙乃至六十五仙一箇月十八盾乃至二十盾(一盾は日本の八十錢—譯者)と賃銀を仕拂つてゐる所もある。一大支那人園で、二十年生のゴム樹を澤山に持てゐるのがある。持主の曰く、其部分の老木は、生産量が著しく減退し、何等の収益を齎さないが、其れでも一日六十仙位の賃銀をタツバーに拂つて居れば、收支は漸く償ふと。吾々が聞き得たる一般の輿論としては、タツバーの所得が、一日五十仙(日本の四十錢—譯者)に下つても、彼等は作業を休むことはないであらうといふこと、倫敦のゴム相場が一封度六片二分の一位に下る時までは、生産額は著しく低下しないであ

らうといふことであつた。

吾々の觀察した所では、生産面積が擴大しても、タツピングに使用せらるべき勞力に不足を生ずるが如きことは、此地方ではなからうといふこと、ゴムの市價が下り、収入が減つても困らないで暮して行ける要領が此地方にあること、労働者は土着であり、而も彼等はゴム以外に倚るべき作物を數多持てゐるのであるから、ゴムの市價が暴落し、生産の減少又は中止を行ふことになつても、彼等が其生活を脅かさるゝが如きことはないといふことである。

吾々の調査したる所では、どこでも浸出する液汁の分量さへ充分であれば、現在ゴム相場が安いといふの故を以て、タツピングを中止してゐる所を見ない。然し、樹皮の更新状態が悪く、浸出量尠少なるが爲めに、タツピングを部分的に中止してゐる園は到る處に見受けた。既に幾度か記載したやうに、樹皮の恢復は、第一回目は可成り良好である。然し、餘り急いでタツピングを行ふが爲めに第二回目は餘程悪く、第三回目は更に悪い。古いゴム園、換言すれば、一九二〇年前に植付を了せる舊園は、次第に其生産數量を減じつゝあるといふことは疑ひを容れぬであらう。之等舊園に於て出の悪い樹に取つては、土人が期待する程度だけでも、其樹皮と浸出量を恢復せんが爲めには、少くとも四・五年の日子を樹の休息の爲めに與へるといふことが必要であらう。老木を以てな

どれだけ其産額を減ずるであらうかといふ問題は、吾々の調査が不充分であるため無論満足に決定出来ないが、大體一割見當であらうと思はれる。然し、土人の眼につく程度に、ゴムの市價が上つて來れば、現在休ましてゐる樹でも、タツピング出來る樹皮が何時か残つて居れば、一本残らずタツピングを行はれるであらうといふことは想像に難くない。一九二三年以後植付けられた植樹の年齢が分らず、従つて、西ボルネオ州に何年木が凡て何本、面積にしていくらあるかといふことを確めることが出來ないから、吾々は此州に於て、將來どれだけゴムが生産せらるゝかを算出することは出來ない。然し、本書序論に於て説明した、極めて大ざつばな尺度を以て計算を行へば次の如くなる。五百噸以下の數字は之を打切る。

一九二九年	一九、五〇〇噸
一九三〇年	二四、五〇〇噸
一九三一年	三二、五〇〇噸
一九三二年	四二、〇〇〇噸
一九三三年	五一、〇〇〇噸

**土人の經濟狀態** ゴムは、熱帶有用植物の中、栽培上最も容易なる部類に屬し、其結果として、最近數年間に、著しく其栽培區域を擴めた。而して、所謂ゴムのブーム時代には、土人の夢想だも

しなかつた富を彼等に齎した。然らば、最近に於けるゴム價の下落は彼等をして經濟上重大なる困難に陥らしめたかといふに、必ずしもさうでない。それは、彼等がゴム以外に多くの耕作物を持つてゐるからである。馬來人は、儲けた金は片ばしから之を使ふといふ鹽梅で、ゴムの好況時代には金の掛る恒久的材料を使つて、土人に不似合な立派な家を建築したり、マホメットの誕生地たるメツカへの巡禮に出掛けたり、自動車に乗つたり(苟も自動車用として使用出來る道路があれば)、贅澤な著物を新調したり、高價な貴金屬寶石を仕入れたり、贅澤三昧に金を費した。好況時代に使用した自動車の殘骸は、今日到る處で見られる。然し、好況時代に於ける右の如き諸要素も根本的に馬來土人の性質を一變することが出來ない。景氣不景氣に拘はらず食物は手近にある。食つて飲んで行ければ強ひて贅澤する必要はないと言つたやうな風に、彼等の思想は不況の今日全く元の木阿彌に歸つてゐる。況んや、彼等は不況とは言ひ乍ら、ゴムの栽培に依て尙幾分の利益を得てゐて、生活を脅かされる程度にはなつてゐない。

### 第三部 蘭領東南ボルネオ

**地理及び地形** 東南ボルネオ州は、ボルネオ島全體の面積の二分の一より少からざる面積を有す。而して、其西隣の州たる西ボルネオ州の約三倍大である。英國の領土であり、保護領である北ボル

ネオ及びサラワクは、其北境及び西北境をなす。東南は、爪哇海及びセレベス海に面す。東南ボルネオ州は、總面積約十五萬平方哩で、大ブリテン島(英蘭、威耳斯、蘇格蘭の總稱)の一倍と四分の三である。

此州は、此の如く廣大なる面積を有してゐるのであるが、二、三の大なる山脈と、其山脈に相當する大なる河流とを有つてゐる。河流の中最も大なるは、サラワク境に其源を發するバリト河(Bario)で、北から南に此州を貫通してゐる。バリトの流域の東境には一大山脈があり、其山脈は、内陸奥深く這入つてゐるが、大體に於て、ボルネオ島の東海岸に沿ふて走つてゐる。

熱帯に於て數百哩を流れてゐる此種江河に於て普通に見る如く、バリトも海岸に接近するに従つて幾多の細流に分れ、廣大なる三角洲を形作つてゐる。バンチャルマシンといふ此州の首府は、此等小流中の一に臨み、海岸より隔たること四十哩であるが、能くKPM汽船會社所屬沿岸航路汽船を容るゝに足る。バリトの三角洲は、海拔僅々數呎を出でないが、大部分は耕地として利用せられ得る。其點は西ボルネオのカプアスの流域に異なる所はないが、同時に、土人の耕作には深過ぎる廣大なる濕地がある。加之、此河の流域が、カプアスの其れと異なる所は、内陸深く這入つても尙多くの濕地が、河の兩岸に存在することである。

東南ボルネオ州の土人ゴムは、約其七割五分をウル・スンゲイ(Ulu Sungai)と稱する奥地に生

産するから、吾々の見地から言へば、此地方の調査が特に重要なのである。ウル・スンゲイは前記バリト河と、東海岸に沿ふて南北に跨つてゐる一山脈との中間にあり、バリトの一支流の流域を形作る。本流たるバリトの沿岸附近には低濕の地が多いので、土人は多く此等濕地と山脈との中間にある南北約百哩の狭小なる土地(其れは、東の方に於ては右山脈に屬する多くの丘陵に依て界限されてゐる)に居住してゐる。狭小なる此土地は更に幾多の細流と、廣大なる水田適地とに依て、多數の小區域に分たれてゐる。此處にいふ細流は此附近の河流に能く見るが如く、細長なる土手に依て縁取られ、土人は第九圖に示すが如く、多く此土手の上に住居を構へてゐる。米田は之等住宅の後方に位置を占めてゐる。此等細流の縁邊が沃土に富んでゐることは申すまでもないことであるが、東方の丘陵地帯も、低い所の大部分、山脈に連なつてゐる高い處の或部分は、相當地味が肥えてゐる。高い部分の丘陵地帯は、過去數年或は數十年の間に陸稻を栽培するために開拓せられ、今はララン草の跳梁に委してあるから、數百平方哩に亘つてチャングルなしである。此ララン草は、吾等の耳にした所に依れば毎年乾期に燒盡され、樹木の自然的繁茂を有効に阻止してゐる。而して土人は、陸稻栽培の爲めに東へ々々山脈目掛けてチャングルを切開いてゐる。

三角洲内の土地は、大體に於て膏沃なる粘土よりなり、處々に稍々大面積の泥炭地、砂地を配してゐる。三角洲の粘土は適當なる排水作業を行へば、如何なる熱帯有用植物をも栽培することが出



来る。然し、一般に地水面が非常に高く、其儘ではゴムの栽培には適しないから少数の例外を除き、多くは排水溝を設ける際に掘出した土を以て土地の表面を高め、ゴム樹の栽培を行つてゐる。

**人口と土人の種類** 東南ボルネオ州の總人口は、百六萬である。依是見是、一平方哩の人口は僅に七人となる。右百六萬の人口中、二萬二千人は東洋外國人、三千人が歐亞混血人及び歐洲人(日本人は歐洲人の部類に入る)である。而して、歐亞混血人及び歐洲人の約半數は、本州東海岸に於ける油田、石油工場に奉職してゐるものである。之等東洋人、歐洲人等を差引いた残りがダイヤク族及び各種の馬來種族である。當州に於けるダイヤク族の數は約二十四萬人で、吾々の調査區域たるウルー・スンゲイ地方には、四十五萬人より、より少からざる馬來人が住んでゐる。ウルー・スンゲイ地方に於ける人口の密度は、一平方哩當り八十六人で、處に依りては之よりも人口遙かに稠密である。

此處に馬來人といふは實はバンチャル人で、バンチャル人は大なるセツトルメントを爲して海岸地方に居住してゐる。バンチャル以外の馬來種族も、大部分(例へば東海岸油田地方では一八五・〇〇〇人のバンチャル以外の馬來人が住んでゐる)海岸に居住してゐるが、此處彼處に散點してゐるので、大なるセツトルメントを形作つてゐる譯ではない。

無論人口が稠密で、生存競争が烈しいせいであらう、バンチャル人は、文化的に經濟的に、他の



第九圖-河岸に於るバンチャル人住宅

馬來種族が到底企及すること出來ぬ程の進歩發達を遂げてゐる。彼等は一般に活潑なる労働者である。海岸地方に住するバンチャル人は操艇に巧みで、航海の術に長じてゐる。彼等の商業的本能力は異常に發達し其れが爲め、大町村に住んでゐる支那人商人すら苦戦してゐる有様である。今日ウルー・スンゲイ地方とバリトー河との間に、各種の雜草ラン草雜木に覆はれてゐる人跡なき廣大なる波狀を爲せる地積がある所に依て見れば、バンチャル人が今日住居してゐる區域に到達するまでに彼等はバリトーの方から、ダイヤク族を山手に追ひ詰め、來つたものに相違ない。ウルー・スンゲイに彼等が到達する迄に彼等は西から東に向ひ、深いスウォムプを通じて流れてゐるバリトーの支流を巧みに利用したのでならう。バンチャル人の經濟思想が如何に發達してゐるかは彼等が江河の迂回點

に延長數哩に亘る運河を開鑿して近道を作つてゐることに依て察知することが出来る。

ポンテイアナに對すると同じくバンヂャルマシンの對しても、マドウラ人の帆船が取引上の目的で來航する。マドウラ人とは別な馬來種族の一たるセレベス島のブギス人が、東南ホルネオ州の東岸に渡來し多くの居留地を作り、廣大なる面積に亘り、各種の栽培を行つてゐる。

ダイヤク族は小部落をなして奥地に散在してゐる。馬來人の部落に近く住んでゐるダイヤク人にして馬來人と雜婚してゐるのは相當にある。

**氣候** 東南ホルネオに於ける平均一年の雨量は、約百吋である。然し、六月から十月までは相當目に立つ程の乾燥期である。六月から十月までは、東季節風の時期ではあるが、東部に高山脈があつて之を遮つてゐるので、空氣は乾燥し、ウル・スンゲイの地に於ては僅少の雨を見るのである。ララン草に覆はれてゐる區域が毎年焼けると言つたが其れは此時期に於てである。

**交通** バンヂャルマシンの北方には最近道路が大分出來てゐる。此道路が出来るまでは、此州に流れてゐる大川の本流支流、デルタを縦斷し横斷してゐる多くの水路に依て運輸交通が行はれ、今日でもウル・スンゲイ等奥地への輸送(ゴムは素より、其他の貨物でも)は全く水運の便に依て行はれてゐる。

ウル・スンゲイ地方其自身はどうか。此處には、可成り發達した砂利道路の網がある。只其中の

二・三は、乾期に於てのみ自動車に依て利用せられる。

之等の道路は、蘭領東印度の此處彼處に今日でも行はれてゐる公役の制度に依り、土人の勞力を強制的に動員することに依つて構造せられたものである。道路は間斷なく修理せられ、其延長も、土人の生活區域が擴大すると共に年々増大しつゝある。東南ホルネオ州には鐵道がない。又吾々の聞糺した所では、最近に於て鐵道を敷設しやうといふ計畫もない。

**栽培物** 彼等自身の日常の用を充足する爲めに必要な植栽物(米、玉蜀黍、其他)以外馬來人が東南部ホルネオ州に於て、輸出向として生産しつゝある作物は、胡椒とコブラとあるに過ぎない。而してコブラ、胡椒と雖も、ウル・スンゲイ地方には餘り多く耕作せられない。コブラを産するココ椰子は、ホルネオの海岸地方を主産地とし、胡椒は、主に本州の東海岸地方に



第十圖 ラン草の繁茂せるムゴ園よ第二回の日米收穫寸

生産せられる。

土人の定着せる村落附近に於て水稻に適する所では、一年一回米の耕作が行はれる。水稻の適地がない所では勿論のこと、水田のある所でも、陸稻を耕作せんが爲め年々大面積の矮樹林やチャングルが開墾せられる。斯く水陸に跨つて米の耕作を行ふが、土人は今にゴム相場が上るに違ひないと確信してゐるので、前に述べた丘陵地帯に於けるラランの草原に向て骨の折れる除草を行ひ、第十圖に見るが如く、米と前後してゴムの栽培を行ふ。而して、一二次米の收穫を行へばゴム林にする。馬來半島に於て怠惰なる馬來人をのみ見てゐる人に取ては、同種族の中に斯くも勤勉なる部族があるといふことは殆んど信ぜられない位であらう。然し東方の丘陵地に向つてばかりではない。バンチャル人は、一つは人口過多のせいでもあらうが、彼等が嘗て打棄てた南方の土地(主として草原よりなる)を再び開墾し、米を植付けようとしてゐる。米の後にはゴムが植付けられることがきまつてゐる。斯く米は、諸方に栽培せらるゝに拘はらず尙當州の産米は地方的需要を充すこと能はず、年々平均三萬五千噸の米が外國から輸入せられる。

米・ゴム・胡椒等耕作物の外、ダマル、コバル籐等の林産物が相當に當州に産出せられ(主としてダイア人の手に依て)、其輸出高は年々大體同じやうな金額に上つてゐる。

#### ゴム栽培

ゴムの栽培せらるゝ所で、ウルー・スンゲイ地方以外に吾々の訪問したる部は、只一つ

あるに過ぎないから断定は出来ないが、之等の地方以外でもゴム栽培の情況には大した變りがないようである。

ウルー・スンゲイ地方では、ゴムは次に記載ある三種の土地に植付けられてゐる。官衙と、數戸の店舗とを有ち、田舎ではあるが市場の中心地と目せらるゝ所では馬來土人は、裏の地面よりは一段高くなつてゐる河堤に數碼づゝ離れ、相並んで居を構へてゐる。而して、所謂街道と稱すべきものは概して此小高い河畔に沿ふて造られ、家が街道に沿ふて建てられてゐるので、部落は如何にも何哩も續いてゐる大きな村のやうに見える。家屋の周圍にはおきまりのココ椰子と果樹とが植付けられてゐる。而して、家屋の後方に稍離れて水田が設けられてゐる。ゴム樹を植付けてゐるのは其先きで、(1)其先きの小高い處には、大方はゴムが植



第十圖一のムゴの幼木を以て覆るる山

込まれてゐる。之れは多くは一九二〇年前に植付けたものである。(2)然し、此部分の面積には限りがあるので、次には雑木とラン草の繁茂せる低い丘陵地帯に植付けられてゐる。(3)而して、最後に第十一圖、第十二圖に示すやうな、遙かに險峻な山に植付けられるやうになつた。土人の手になる所の新園は、此第三種の土地に設けられてゐるのである。

右の外にも、土人の植えてゐるゴムが三角洲にある。然しこゝでは地下水が高いから、元の儘ではゴムの植付けが出来ない。従つてゴムは、排水溝を掘る時に得た土塊を積上げた土手の上のみ植付けられてゐる。そんな始末であるから、之等デルタに於ては、新栽培は遅々として進捗してゐるのみである。

ダイヤク族の棲んでゐる奥地は、只其縁邊を一瞥したるのみである。聞く所に據れば、彼等も亦馬來人の眞似をして、山を拓き米を作り、同時にゴムを栽培してゐることである。然し、ダイヤクのゴム栽培が、果してどれだけゴムの總産額に影響を及ぼすかは疑問である。彼等のゴムと米とは、火災と野鹿の爲め間斷なく其生産を阻止されてゐる。

ポンティナ地方に於けると同じくバンチャルマシンの奥でも、一九二〇年から一九二四年までの不景氣時代には、殆んど何等のゴムも植付けられなかつたらしい。いくらか植付けられたものがあつても、手入れを怠り、自然の成行きに放任してあつた、めに、火事に遭つて燃えてしまつたの

であるかも知れない。兎に角其當時のゴムといふものがない。一九二四年から昨一九二八年までの植付面積は堅實に殖えてゐる。昨年になつて、相場が着しく下落した、めに、陸稻と一緒に植付けられてゐるゴムはいくらかあるが、大部分は植付を中止してゐる。

吾々兩名が、

展望のきく高地  
ゴム園から俯瞰  
し、観察した所  
及び地方在勤の  
官吏其他から直  
接聞得た所に依  
ると、東南ボル  
ネオ州に於ける



新植地は、其面積に於て現に  
積に於て現に  
タツピングを  
爲せる區域の  
二倍半から三  
倍もあらうと  
想像されるの  
である。

栽培法、病蟲害其他 當州に於て、一英反當りに植付けられてゐるゴム樹の数は、西ボルネオ州に於けるよりは稍々少なく、三百五十本を超ゆることは稀れである。平均の本数は三百本に近かるべきかと思はる。

當州に於ては、ゴムを植付けんが爲めにのみ土人が土地を拓くといふことはない。そんな所を吾々は只の一箇所も見なかつた。土地を開拓してから、土人は米を一・二回収穫する。大抵は一回收穫してからゴムを植える。其れより晩く植付けることもある。米の耕作中は、必ず除草を施すで其れがゴム樹の手入れとなり、大に其生長を助ける。其後も全然手入れを施さないのでないが其手入れはゴム相場の高低と、相場に對する將來の見込みに依つて定められる。相場が良ければ手入れを能くし、然らざれば自然の儘に放任する。ウル・スンゲイ地方の人口稠密な部落の附近にはゴム林又は陸稻栽培地として恰好な雜木林が殆んどないから、既に述べた通り米、ゴムを栽培する爲めに土人はラン草を以て覆はれてゐる高い丘陵地帯を再び開墾してゐる。此處で、ラン草を掘つてはゐるが、其れは只單に米をのみ栽培せんが爲めでなく、米と同時に將來大なる利益を齎す所のゴムをも栽培せんが爲めである。只一・二回米を收穫すれば、其れが食糧となり、勞力に對する報酬が適面に現はれて楽しみが多からうといふものである。只單に陸稻の栽培をする爲めのみであつたならば、遙か遠くの處女林を開墾した方が、遙かに作業が容易である。

土人の栽培地は、植樹の本数が著しく多いから陸稻の收穫後と雖も、ラン草は割合に生えないうが、近所にラン草原があるにきまつてゐるので、焼け残りのラン草の種子が新植地に這入り込み、廢滅を以てゴム園を脅かすことがある。此種の現象は、特に最近開設したばかりの新園に於

てさうである。之等の新園は、現に採液しつゝある舊園よりは遠隔の地にあるが爲め、兎角手入れが怠り勝ちになる。又火事に依つて大損害を蒙つてゐる例が見受けられた。或場所では充分生熟したゴム樹が焼け落ち、可成りの大きさに生長した吸枝が又焼け、其れから出た吸枝が目下其樹の樹幹となつてゐた。土人園で、完全除草に近い除草を行つてゐるのもたまには見受けた。然し土人の除草は(若しすることある場合には)、樹列に沿ふてラン草を刈取る位の程度であつて、これでは樹の發育上から考へても大した効果なく、暫く立つと火災の豫防法にもならない。

以上述べたやうな狀況は、河口に近き三角州には存在しない。其處では、ラン草の代りに雜木が生える。而して、此三角州に於けると同一の狀況が、人煙稀薄なる他の地方に於ても存在するであらう。

ダイヤク族の棲住地である北方の奥地に隣接せる地方で最近始めてチャングルを開拓して植付けをなせるゴム園は、ポンティアナ地方に於ける此種ゴム園と同じく、根菌の病に侵されてゐるが、ラン草原を開墾して作り上げたゴム園は、馬來半島に於ける同様の土地に於けると同じく、此種の病氣に侵されることが少ない。其れは此種草原地では、チャングルに特有の諸菌が既に久しき以前消滅してゐるからである。若いゴム園には、Dieback病を見ることがあるが、何故か餘り蔓延してゐない。只一つ動かすことの出来ない事實は、當地方に於ける氣候がポンティアナに於けるよりは其

蔓延に都合が悪いといふことである。

ダイヤク族の住する奥地に近い地方に於て散在する小ゴム園では、野鹿の害を蒙ることが大である。只然し、他の處に於ては勿論、奥地でも野鹿の爲めゴム樹の全部をつぶされるといふことはない。

ゴムに對する白蟻の害は、此地方に於ける園の如きゴム園に於て、人が期待するであらうかの如くに甚だしくはない。樹幹の主要部に肉瘤又は甲狀腺腫の如き突起を生ぜしむる所の Brown Leaf 病は可成り一般的である。採液を行つても利益ないゴム樹の数が、年に著しく増加するのは此病あるがためである。

微腐病に似た菌病も亦同じく一般的である。此菌病は、或ゴムの樹皮を殺す力を持つてゐるが、ゴム樹の大部分は、相當惡質の菌病に抵抗し得るだけの力を持つてゐる。

**タツピングと産出量** 此地方に於ては最良の土質を有する所で、手入れさへ充分であれば五・六年にして切付をなし得る程度になる。然し、土人はゴムの相場が上れば、小さ過ぎはしないかと思はれる樹でも、タツピングを行ふことを躊躇しない。ウル・スンゲイ地方の極南極北の地の如く、土質の餘り香ばしくない地方では、八年生以下の樹でタツピング出来るのは多くはなからうと思はれる。

土人の一般的習慣としては、毎日切付けを行ふといふのである。而して、切付の方法は、螺旋狀に樹幹の半分を切るか、V字形に同じく樹幹の半分を切るかである。第一回の切付は、可成り巧妙に行はれ木質を傷害することは先づない。然し、樹皮の一日の剝取量が多いから、一箇月少くとも二時半乃至三時を消耗する。此計算で行くと、二、三年で處女皮は剝取し盡されることになる。處女皮の後に生ずる第一回の新皮は相當に發達してゐるが、樹皮が充分恢復するのを俟たずして切付をするので第二回、第三回の新皮は發達が悪く、且つ樹面に多くの切傷を生ずる。本當りのゴムの浸出量を増加する爲め、土人は液汁の浸出する方角にどつちへでも切付くるやうになるから、遂には絶對に切付くる場所がなくなり、或は切縮められ、馬來人の浸出量を標準として見ても切付の價値がないやうになる。タツピングは、家族の手に依つて行はるゝこと多く、傭人を使用する場合は、園主五分、傭人五分といふ取極めである。

一人一日の切付本数は、三百本より僅に少く、又一人一日の生産額は、吾々の試験の結果を平均すると、五、三封度である。色々の原因の爲め、生産面積の三分の一は切付けを行ふことが出來ず、且つ土人は休日多く、マーケットに出場する時などタツピングを休むことが多いから一年中の切付日数を二百七十日として計算の歩を進めると、一年一英反の産出額は九百五十封度である。茲に注意すべきは、バンヂャル人は他の馬來種族の如く、マホメット教の斷食日に、絶對に仕事を休むとい

ふやうに、嚴格に戒律を守らないといふことである。吾々は地質不良産出額不十分だとの噂ある遠隔なる地域を調査せず、且つ此地方に於て流行する家族的タツピングは、雇人に依るタツピングの如く規則的ではないから、前記の一年九百五十封度といふ産量は、東南ホルネオ全體の平均として高きに失するの嫌あり、恐らくは七百五十封度以下を以て平均の數量とするであらう。一九二五年此方面の調査を行へる土人ゴム調査委員會は、三角州地方に於て排水溝を堀上げたる土塊に依つて造れる堤防上に栽培せるゴム園の産出量は、一英反平均五百封度、豊沃なる河畔に於けるゴム園の産出量は八百十八封度に達すと報告してゐる。

一九二八年當州に於ける生産可能量は一萬六千八百封度内外であつた。前節に擧げたる一英反當りの生産額と此數字とを基として計算を進むると、當州に於ける昨年中の作付面積は五萬英反内外となる。然し既述せる如く、當州には、既生産面積の外に、既生産面積の約二、三倍に相當する未生産ゴム林あり、中には年々火災の爲めに焼倒される樹も其中に含まれてゐるから、事實ゴムを栽培せる面積は十五萬英反に達するであらう。然し、ゴム相場の向上を見ない限り、此十五萬英反といふものが必ずしも生産區域となるものは考へられない。ゴムの價格が安ければ、住宅より遠くて、手入れに骨の折れるやうな所は自然疎かにされることになり、新しく開園するにしても、遠方のララン地を開墾するには尠からざる勞力を必要とするので、豫想通りの生産量に達することはな

い。但し、ゴム相場が將來の生産額に果してどれだけの影響を與へるかを適確に算定することは尙一層綿密に調査した上でなければ出来にくい。

**製造と販賣** 此地方に於けるゴムは、殆んど全く濡れ板ワレストラフとして製造せらるゝ。凝固用劑として明礬を用ひ、時としては陽光に乾燥することがある。ゴム板は、水路又は陸路に依つて最寄の市場に運搬され、一週一回立つ市に於てバンチャル人の仲買に販賣される。バンチャル人仲買は、買入れた原料ゴムをバンチャルマシンに於けるゴム市場に賣渡すか、或は新嘉坡に於ける會社の爲めに、バンチャルマシンに於てゴムの買付をなす會社駐在員に賣渡す。小資本の仲買人の間に弘く行はれてゐる方法としては、自動車に乗つて山手のゴム園に出掛け、出來得る限り値段を下げて土人から買入れることである、バンチャル人の商買上手商買熱心には驚くべきものがある。之等の仲買人や工場の手に渡つた粗製ゴムは、未製品も半製品も共に水運の便に依て新嘉坡其他の港市に運搬せらるゝ。

東南ホルネオ州に於ける最も有名なるゴム工場(十六のユニットよりなる)はバンチャルマシン市にあり、日本人會社(大阪野村農園)之を所有す。該會社は又同時に同地方に於て最大なるゴム林の所有者である。此日本人會社はウル・スンゲイ地方にも二個の補助的小工場を有す。ウル・スンゲイには、バンチャル人の有する一小ゴム工場がある。和蘭人會社が、バンチャルマシンに於て

所有する一粗製ゴム製造工場は、既に久しき以前より閉鎖せられてゐる。然し、吾人の聞き得たる所に依ると、此工場を再開する話が、目下進行中であるとのことである。前記日本人工場は、一年四千噸の原料ゴムを取扱ひ、二種のブランケット・クレプを製造し、スラバヤ新嘉坡を經由米國に輸出してゐる。

ボンテイヤナに於けると同じく、日々のゴム相場は、ケーブルにて新嘉坡より報道され、斯くてゴム仲買人は、世界に於けるゴム相場の日々の動きを眼中において取引を行ふことが出来る。

**勞力と將來の生産額** ゴム汁液の一大部分、一層適切に言へば、其半数以上は家族の手に依て採集されてゐる。一家の主人がタツピング以外の作業に従事し居る場合には、妻子が力を合せて毎朝必要時間だけタツピングを行ふ。家族の手に依らず雇人の手に依てタツピングを行ひ居る處(全體の生産面積の約四割)は、雇主五分、雇人五分といふ約束で採集を行つてゐる。タツピング苦力一人一日に付、五封度の收穫があれば、而して地方に於けるゴムの取引價格が五片半乃至六片半、倫敦相場が十一片であれば、一日六十乃至七十仙(盾仙)の收入があるから、タツピング苦力をゴム園に引付けることは困難でない。否同地方で聞いた意見に従へば、ボルネオに於けるゴムの相場が下落して三片半(倫敦相場七片)となつても、五分五分の約束で苦力を引付けることが出来る。而して、家族の手に依て(雇人に依らず)殊に家庭に居る女や子供の手でタツピングを行ふ場合には、い

くらかでも收入があれば、其れは全部利益になる譯であるからゴム相場が譬へいくら下落しても、タツピングは繼續されるであらう。

吾人の耳にしたる所に依れば、ゴム相場昂騰の際に於ては五千人内外のブギス人が、東海岸から山を越えてウルー・スンゲイ地方に來り、東海岸に於ける一層骨の折れる勞働(彼等の胡椒畑に於ける)を棄て、骨が折れず報酬の多いゴム園にタツピング苦力として働いたといふことである。然し、ゴム價格の下落と共に彼等は次第に元の古巢に歸つた。

バンジャル族は、ゴム相場下落と共に生活費を切詰めるとか、新植を中止するとか、四圍の變化に適應する適當なる方法を講じてゐるから、現在に於ける低價格が繼續しても、東南ボルネオ州に於けるゴムの産出額を減することにはなるまいと思ふ。現在當州には充分なる勞力があり、且つ人口も其數に於て、生活區域に於て著しく増加しつつあるから、來るべき數年に於て生産期に入るべきゴム樹のタツピングを爲すには不都合はないであらう。

將來の生産額に就ては、年々火事の爲めに燒盡されるゴム樹の面積が不明であり、且つゴム産額は、吾々が屢々説明したる通りゴム相場、近き將來に於ける騰落豫想といふものに支配せらるゝことが多いからつきりしたことは申されない。然し、ゴムの價格が現在通りであるとするならば、園の手入れは怠り勝ちになり、手入れ不足火災等の爲め、新植地の半分が生産不能に陥るかも知れ



ない。今假りに將來物になる新植ゴムが、古いゴム園の二倍あるとし、更に本書序論に於て擧げた尺度を標準として來るべき五年に於ける各年の生産額を推計すると次の如くなる。

一九二九年	一六、五〇〇噸
一九三〇年	一九、〇〇〇
一九三一年	二四、〇〇〇
一九三二年	二九、五〇〇
一九三三年	三四、五〇〇

**土人の經濟狀況** ゴムが土人作物の一として加へらるゝ前からして、ウルル・スンゲイ地方は、熱帯地にはめづらしい、經濟的發達を遂げてゐたのである。此の如き土地柄であるからゴムの市價が下落したからと言つて、土人の經濟生活狀況が急に悪くなりやうはないのである。米其他食料品の輸入が増加してゐる所を見ると、一九二五―二六年に於ける好景氣の際には此地方の米栽培は多少中止せられた所があるかも知れない。併し、一九二六年既に米輸入増加の傾向があつた。之は米作が再び本氣に始められたことを意味するものである。而して、吾々が調査に行つた當時は何れの方面を見ても、水田は残りなく耕されてゐた。前述のやうな次第であるのみならず、古々椰子其他の果樹が到る處に栽培され、縦横に流れてゐる大小の江河は河魚に充ちてゐるので、其日の事に困るとい

ふことは勿論なく、ゴムの栽培に依つて生ずる収入は、一種の餘剰所得と見れば見られぬこともない。

數年前に於けるブームの結果、以前よりは遙かに永久的の構造を有する住宅が完成され、未完成の儘取残されてゐるものもある。自動車、自轉車は到る處に見出され、多數の成年男子、否未成年の子供までが大金を懐にして遙に聖地メツカに巡禮するやうになつた。祝祭日には美しき着物と、腕飾其他高價なる裝身具が眼につく。今日は、無論一九二五・六年のブームの時のやうな譯には行かないが、尙相當餘裕ある昔日の生活振りに戻つてゐる。要之最近に於けるゴム價の下落は、此州に於ける土人の經濟生活に對し、眼に見えるやうな悪影響を與へなかつたことは事實である。

#### 第四部 スマトラ―ラムボン州の部

ラムボン州は、スマトラ島の最南端に位し、爪哇から其處に行くには、スンダ海峽(Straits of Sunda)を横斷するを捷徑とする。スンダ海に面せる州の部分よりは、南スマトラ鐵道が北西に向つて州内を横斷し、バレムバン州に走つてゐる。

ラムボン地方は、胡椒を産出するを以て有名である。ラムボン産胡椒と言へば、物産市場に相當に知れ渡つてゐる。で、土人は胡椒の栽培を主産業としてゐるから、今日此地方に産する土人ゴム

といふものは、大した數量ではない。でも、一九二五―六年のゴム價昂騰の際擴張されたるゴム栽培の區域は、蓋し少からざるものがある。今日はゴム價が良くないから、殆んど何等の新植を見ない。吾々の得た數字から計算すると、好景氣の際植付けられたゴム園は三千英反に登り、主として地味不良なる低丘の上にある。スマトラの西を西北から東南に横斷せる主山脈の縁邊にあり地味肥沃なる群小の丘陵はゴムよりは遙かに多く胡椒・珈琲に適してゐると土人等に依つて考へられてゐる。ゴムにせよ、珈琲にせよ、栽培用地を得んが爲には、拂下料を仕拂はねばならぬし、胡椒の場合には、拂下料が其二倍であるけれども、三・四收穫期續けて高値が続けば、拂下料の相異位は取返して尙餘りある程の利益が胡椒の場合にある。

聞く所に依れば、一九二八年ゴム價が暴落した時には、バレムバン州に働いてゐた爪哇人のタツピング苦力が、南の方ラムボン州に出て來て胡椒畑に入込み一日に二盾(一圓六十錢)乃至二盾五十仙を稼いだといふ。同様の目的で、スンダ海峽を横斷して、爪哇から渡來する苦力が又相當に且つ規則的にあるといふことである。胡椒と珈琲とが、依然として収益を齎し、反之、ゴムの値段が今日の如く低いとすれば、ゴムの新植が之から先き市價に影響する程度にラムボン地方に行はるゝだらうとは信ぜられないのである。

右に述べたる如く、南スマトラ鐵道は、北西にバレムバン州を通過してゐる。而して、今日は、ラ

ムボン、バレムバン州の兩州に跨る道路がないから、此鐵道は、南方からバレムバン方面に這入り込む唯一の交通機關になつてゐる。目下建設中のスマトラ縦貫道路は自動車道路として計畫されたものであるが、今日バレムバン州堺から南四十五哩の地點にまでしか進んでゐない。然し、來るべき三年間には、バ州との連絡が此道路に依て取られるやうになる見込みである。

## 第五部 スマトララバレムバン州

**地理及び地形** バレムバン州は、スマトラ島の東岸に位し、既述の通り、ラムボン州を南に控えてゐる。西にベンクレーン州(Banjoelen)を控え、北はチャムビ州(Djambi)に面してゐる。當州の面積は約三萬三千百平方哩で、英蘭、咸耳斯の面積を合計したものの五分の三に當る。

バレムバンの西には、スマトラ島の西海岸に沿ふて、北西から南東に走り、九千呎以上の高峯をいくつか持つてゐる高山脈があり、西ベンクレーン州との境界をなしてゐる。此山脈に附屬してゐる高丘陵は膏沃なるローム質粘土よりなり、各種の栽培に適當す(第十三圖參照)。前述の高丘陵は、波狀を呈してゐるが、大體に於て東方に進むに従つて低く、海岸より百哩内外の處に於て平地に連なつてゐる。海岸に於ける此廣大なる平地は、多くは濕地より成り、或部分は排水施設をなせば耕作を行ふこと出来るが、或他の部分は水が餘りに深く、到底耕地化し得られない。

少くとも州の五分の四の面積はムシ(Musi)と稱する大河の流域に盡す。此河は其源を西方の山脈に發し、東に流れ、海岸に近づくに従ひ熱帶地に於ける多くの他の河と同じく一大三角洲を形作つてゐる。ムシは數百哩に跨る大河で、其下流には、數多の大支流あり淺吃水の船舶の航行に適してゐる。ムシの流域に屬せざる部分に排水する一大河系がある。ムシの沿岸には當州の首府パレムバン市とバ



第三十圖 マスラト高丘陵の部一

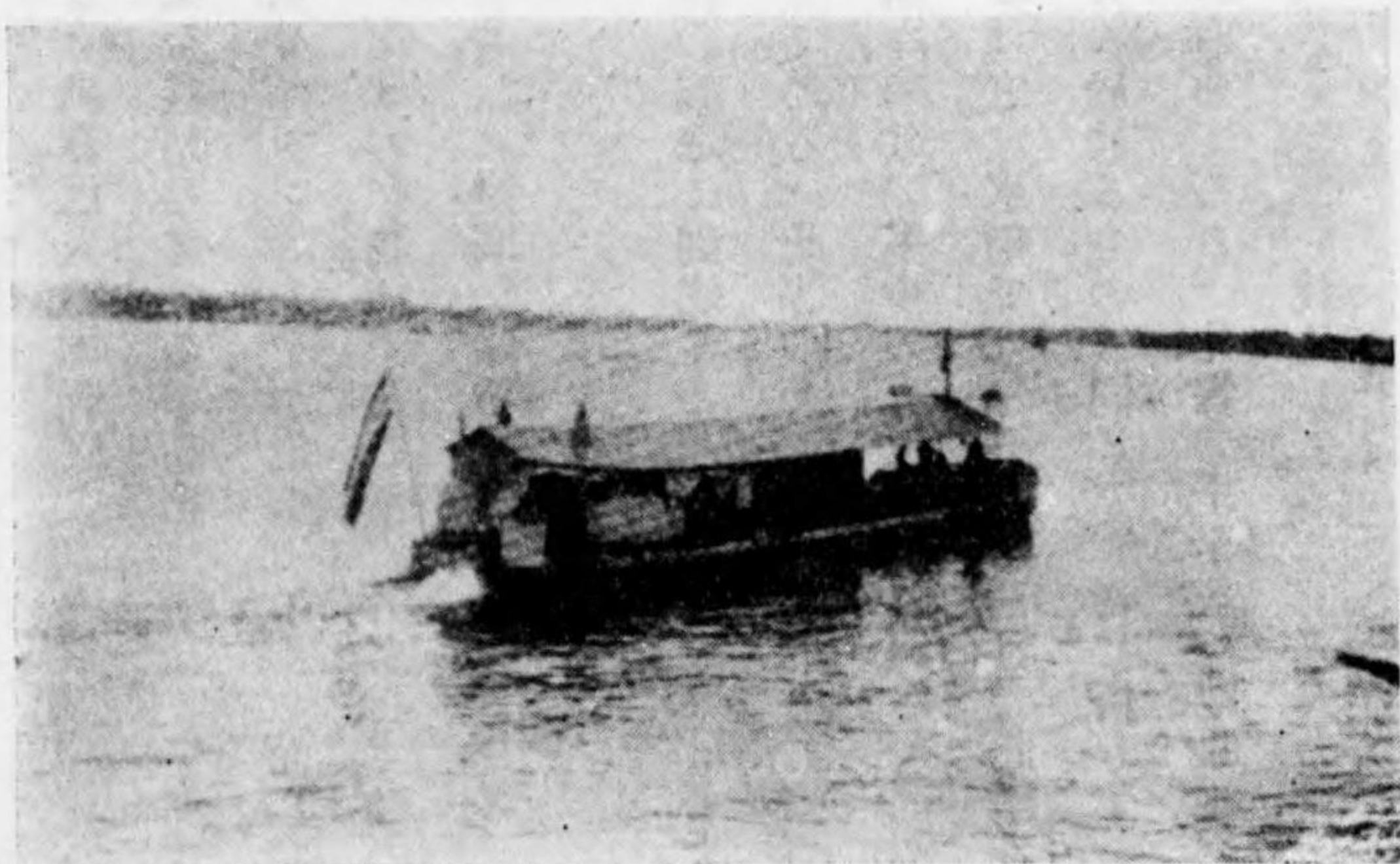
タビア、新嘉坡の間にはKPM汽船會社船及び支那人汽船が定期不定期に船を走らせてゐる。バ市は、當州に於ける唯一の港市であるから、當方面を相手とする輸出入貿易は、悉く此港市を通じて行はれる。高山脈に接續せる前記の高丘陵は土地殊の外肥沃にして、珈琲の栽培に適し、爲めに、當州より輸出せらるゝ珈琲の價額は、一九二五年ゴムの好況時を除き、常にゴムの輸出價額を凌駕

してゐる。序でながら言つて置すが、蘭領東印度に於ては、土人生産の珈琲は歐羅巴人生産の珈琲よりは、量に於て勝つてゐる。歐羅巴人の珈琲園は、パレムバンの此附近に多數に存在する。歐羅巴人は此高地に珈琲の外、茶を栽培してゐる。高丘に隣せる一萬八千方哩内外の地は、波形をなし、年數まち／＼なる第二次生チャンゲルを形作つてゐる。而して、土地は砂利多く、地味瘦せ、珈琲の耕作には適しないが、尙ゴムを栽培することが出来る。更に東の方に低くなつてゐる低丘陵地帯は一般に砂質の土壤で、昔は幾回か陸稻の栽培をなしたらしく、今は一面に矮樹林とララン草を以て覆はれてゐる。

當州に於ける大河は、海岸の濕地に到達する前に、兩岸には廣大なる平地を有し、所々から相當な河幅を有する大支流を出してゐる。此等の大支流は、第二次生のチャンゲルを以て覆はれてゐる低丘陵地帯に溯り、雨期其兩岸には、多少の程度に於て河水が氾濫する。河水が減退すれば、土人は乾期米と稱する陸稻を作る。之は水稻ではない。水稻は、此附近には餘り耕作されてゐない。當州に於ける大河も、他の地方に於けるものと同じく、稀に併し乍ら期節的に襲來する大洪水に依つて生ずる大小の土手を兩岸に有してゐる。此等の土手は、地味甚だ肥沃にして、之を所有する土人は各種の作物(中には僅少のゴムあり)を栽培してゐる。土人の耕作地は、かくて何哩となく河岸の堤上に連なつてゐる。

### 人口と住民 當州の人口

は今や約百萬に達す。其中東洋外國人が約二萬人で、殆んど全く市街地に住し、歐洲人、歐亞混血人の數は千八百人に過ぎない。就中、歐洲人は當州に於ける石油事業に關係してゐる者のみであると言つても差支へない。以上の人種を差引いた残りの者が、爪哇種族（此爪哇人の祖先は數百年前多數此地に入込み、殆んど此地方を支配してゐたことがある）と混血した馬來人で、



（照參頁八十五第）河シム一圖四十第

馬來人に似合はず、一般に勤勉で、可成り發達した文明を持つてゐる。之は一は河岸に於ける人口が稠密で、競争が割合に激しいことに原因してゐるものである。河の兩岸の平野には、可成りに密集せる土人の部落が此處彼處にある。

當州の人口は尙頗る稀薄で、人口密度の統計一平方哩に僅々三十人に過ぎない位であるから、奥地低丘陵地帯には永久的土人のセトルメントのやうなもの

がどこにもない。

**氣候** 南緯三度の線が此州の中央を東西に走つてゐる位であるから、季節に依て非常なる氣候上の變化がある。平均一年の雨量は百十吋内外である。最濕の時期は西季節風の時で、其れは十月から翌年の四月までである。最乾期は東季節風の吹くときで、其れは六月から十月までである。六月から十月までの乾燥期には、東部地方に於けるラン草原地の一大部分が年々燒盡され、其地方にある矮樹林の樹木が或部分に於て非常に小さい所を見ると、矮樹林もラン草原地の火事に時として見舞はれることが分る。

**交通** 萬遍なく分布せられたる勤勉なる多數の住民を有するだけに此州は公設の徵發には誠に都合よく出來てゐる。従つて道路は頗る能く發達し、道路の良好なる點に於てスマトラの州中當州に比肩し得るもの



路道州ンパムレパるけ於に期雨一圖五十第

がない。乾燥期には實に三千哩内外の道路が自動車をも以て疾驅することが出来る(第十五圖参照)。幹線道路は、總て砂利を施してゐる。幹線道路の一たるパレムバン—ベンクローレン道路は絶対に洪水の氾濫を蒙ることがなく、パレムバンから山間を縫ふて西ベンクローレン市に連つてゐる。此道路以外の道路は、概ね谷に沿ふて設けられてゐるが、東方の平地になると雨期中洪水の見舞を受けることが多く、マカダムを施さない道路は、譬へ河水の氾濫を受けないでも、雨期には自動車を其上に使用することは出来ない。大河には渡船の設備がある。然し、最近の傾向は成るべく渡船を廢止し、橋梁を建設するにある。

パレムバン市から、前述したことある南部スマトラ鐵道が、西南の方に高丘陵地帯を走り、其處から南折しラムボン州との境界を横切り、南進して遂にスンダ海峽にまで達してゐる。バ市から北の方の線も目下建設中に屬し、今より五年内にはパレムバン州の北境を越える程度に工事が進捗し、遂にはスマトラ島幹線鐵道を形成するに至るであらう。

然し、パレムバン州の如く、水運の便の發達せる所では、ムシ河及び其支流に依る水運は、現在に於ては遙かに陸運に勝つてゐる。ムシの本流支流は淺吃水の汽艇又は Stern Wheeler (艀に一個のバドルホイールを以て走る淺吃水の汽船)を用ひる時は、一年中數百哩を上下することが出来、増水期に際しては西はベンクローレン、北はチャンピの州界から僅々數哩の地點まで船を進めることが

可能である。

**作物** 乾期作米、熱帯地の何れの地點にもある

古々椰子樹、各種の果樹の外、珈琲栽培が大規模に行はれてゐる。其外、安息香、檳榔子、棉花、胡椒等の栽培も手廣く行はれ、其輸出額は、年々可成りの數量に上つてゐる。多分植付後間もなく葉病に侵さるゝが爲めであらう、胡椒が不作供給が不充分であるためであらう、値段が他の作物に比して常に非常に高いので今や胡椒の栽培は、波狀地帯を去つて高丘陵地帯に移轉しつゝある。

二十五年乃至三十年前、今の Hevea 種のゴムが輸入せられるつと以前に、土語で所謂 Rambong hūm (Ficus elastica) が高丘陵の麓に彼處此處に植付けられてゐた。今日でも其栽培地が残つてゐる。一九二五—二七年に於ても、年々四百噸内外の Rambong hūm が



第六十圖 雨期低地に於るパレムバン道路

此地方から輸出せられたが、今日では此種ゴムの生産は殆んど全く廢絶されてゐる。

波狀地帯は、既述の如く、殆んど第二次生のチャングルで覆はれてゐて、處女林に乏しいから、木材の輸出は近年行はれない。然し、藤、デルトウン・ダマール等林産物の輸出は相當に行はれ、殊に藤は適當な土地に栽培せらるゝやうになつた。

パレムバン州では、第二次生のチャングルを開拓して陸稻を栽培する。而して、米の栽培面積は、非常なる數字に達してゐるが、尙米を外國から輸入せねばならぬやうな状態にある。第二次生のチャングルを開墾する時は、米と同時に必ずゴムを耕作してゐた。然し、ゴム相場が下落すると共にゴムの混植は中止した。當州に於ける外米の輸入額は、年々三萬噸に上つてゐる。

高丘陵地帯の東方には、約一萬八千方哩の波狀地帯が横つてゐる（其れは前に述べた通りである）。此一萬八千方哩の土地の大部分は、大河の支流と支流との間に挟まれてゐるもので處女林といふものを殆んど持つてゐない。而して、一・二度米を作れば、約七年間餘り自然の儘に放任して、第二次生チャングルを形作らしめる。而して又米を耕作するといふ鹽梅である。

**ゴム** 吾々は最初三月パレムバン州に視察に行つたが、折悪しく雨期で、大雨の爲め平地方面は大部分氾濫されてゐたから、目的を達することが出来ず（第十六圖参照）、五月に歸つて來た時始めて重要なゴム産地を視察することが出来た。

ゴム林は二種類の土地に設けられてゐる。第一種の土地は、前に一度記載したやうに、江河の兩岸にある堤畔（第十七圖参照）で、こゝでは、空地といふ空地は一九二〇年前ゴム樹を植込んでゐる。然し、其面積は知れたもので、パレムバン州に於けるゴム林の大部分は第二種の土地、即ち大河の支流と支流との間に挟まつてゐる波狀地帯に存在するのである。本州には交通の部に於て述べたやうに、雨期に於てゞさえ充分に用をなす道路が相當に行亘つてゐるから、此波狀地帯に於けるゴム林の調査につき大體の見透しをすることが出来た。丘陵の中、比較的高いのに登攀して見ると一目大面積のゴム林を俯瞰することが出来る。

當州に於ても亦ゴムの植付は、一九二〇年又は其前後に大方は一時中止された。而して、景氣が出て來た一九二三―四年頃又植えられ始めた。大なる意氣込を



第七十圖 河畔之圖

以て植付けられたのは一九二五—七年である。一九二八年には、ゴム價低落の爲め、植付面積激減し、本年當り幾分の植付を行つてゐる(陸稻の開墾地に)所もないではないが果して能く成熟するや否や疑問である。といふのは第一手入が不足してゐる。火災野鹿の害も相當にある。其れは兎に角として、ゴム林は今や奥地なる高丘の裾にある珈琲園を蠶食してゐる。是れは、一面には一時ゴムの市價が昂騰したのにも由るが、他の半面に於ては珈琲に對する手入れが足りない爲め、其收穫年數が少なく、只僅かに數年を出でず、土人は收穫不能に陥つた珈琲園には、ゴムを植付けるの外はないと考へてゐることに基因するものであるといふ。珈琲をつぶしてゴムを植えるといふ筆法は、土人が最近に覺えたものであるから、此高丘陵地帯から産出せらるゝゴムの數量は尙まだ多くない。以上の記事からして、ゴムの植付面積は、州内到處に擴まつてゐることが解るであらう。即ちゴム林は、此州に於ては、河の兩岸に、道の兩側に何哩何十哩となく續いてゐる。然し、ゴムの奥行は大したことはない。パレムバンに行つて、道路に沿ふてゴム林を視て歩くと、其廣大なることに一驚を喫するが、奥行が三、四百碼に過ぎないのを見るに及んで、更に一驚を喫するのである。一つの郡では、今日以上にゴムを植えることを禁止してゐる。其理由は、低丘陵地帯で、米の栽培を爲す區域が、爲めに大に減ぜられるといふにある。此郡に於ける土人農業相談所は、ゴムを植える代りに、ゴムを植付けるやうな所があれば珈琲又は胡椒を植付けた方がよいと主張してゐる。

パレムバン州に於ける數百哩の旅行—此旅行に於て吾人は多少に拘はらず各郡殘らず視察した—と、吾人が蘭人官吏及び土人官民より聞き得たる所に依て判斷すると、一九二一年以後に植付けた新園の面積は、一九二〇年以前に植付けられたものゝ五倍、若しくは其れ以上であるらしく見える。

**當地方に於けるゴム林の狀況** ゴムの植付間隔は、處に依つて多少の相異はあるが、平均の立地は、一英反當り四百五十本(三米突四角)以下ではない。植樹の大部分は生熟する。それは、土人が思つたよりは餘計に園の手入をするからである。又根菌病(Konias like disease)も、土人栽培地のやうなタイプの土地では、もつと一般的であるべき筈だが、之もそう甚だしくはない(第十八圖を見よ)。

如何なる栽培地と雖も、ゴムの爲めのみを開墾され



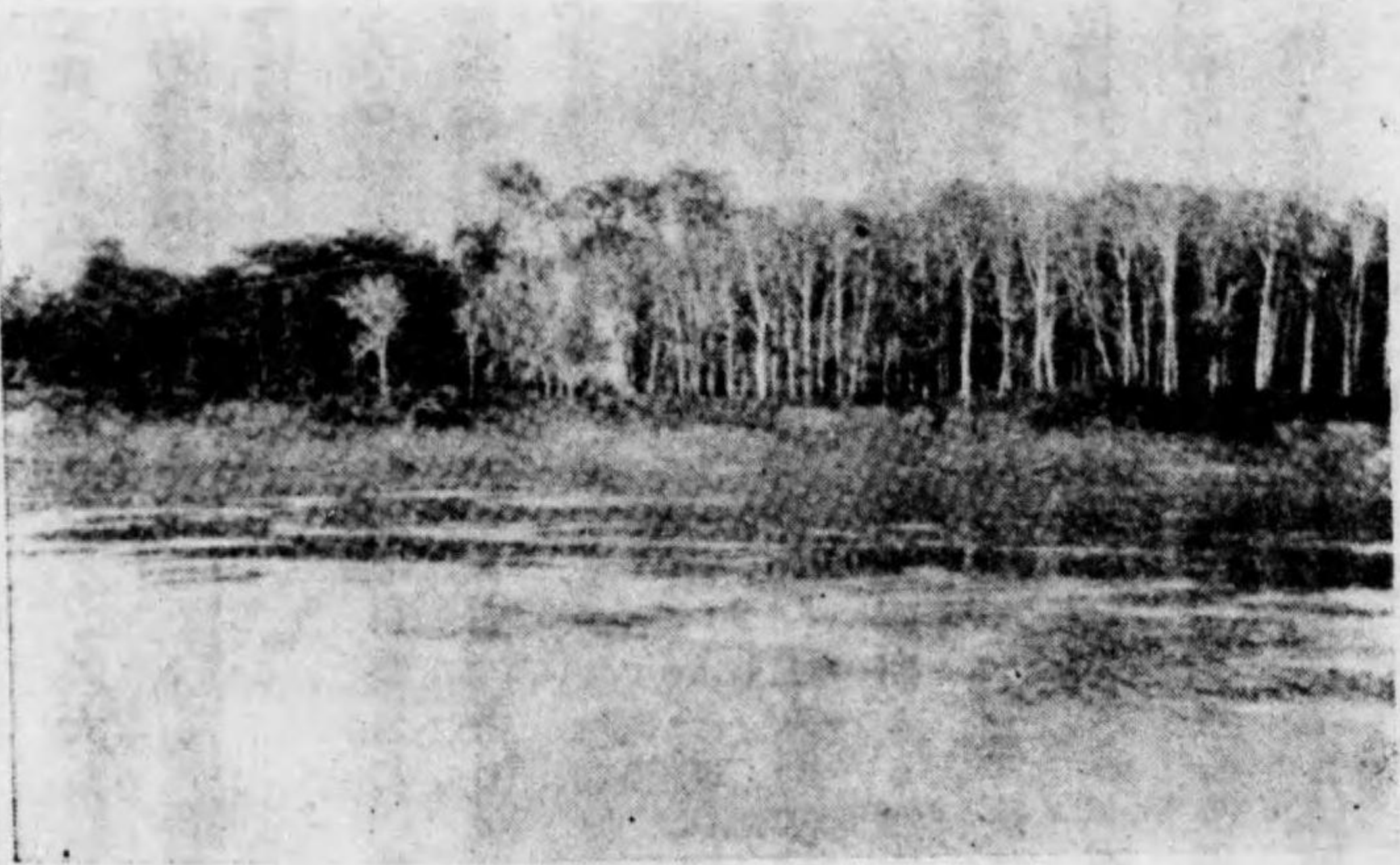
第十八圖 完全成木の多きところを示す

てゐる所はない。第二次生チャングルの様子に依て、或は一回或は二回米其他の作物が間作物としてゴムと一緒に植付けられる。村落に比較的近い所で、一九二五―六年のゴム好況の際開拓された第二次生チャングルの面積がある。其等の所は、ゴム相場が今日のやうに安價であるならば決して開墾されなかつたであらう。

一九二一年以後、殊に最近植付けられたゴム園は、前記の數字よりも一層密に植込まれてゐる。土人の言ふ所に依れば、其方が一英反當りの産額が多い。然しゴム相場が安い爲めに以前には一年一回位取行つた雑木ラン草の退治も、最近は怠られてゐる。又一九二七―八年中植付けられたゴム林及び其一二年前に植付けられたゴム林の或部分は、ラン草で覆はれてゐるから、これから来る乾燥期には、之等ゴム林の大部分は、火事の爲めに燃えてしまふかも知れない。吾等の視察したる或郡で、百英反以上の新園が、一九二八年中火災に罹つてゐたのを見た。然しゴム相場さへ良くなれば、園の手入れも今日よりは行届く様になり、火災の損害なども減殺されるやうになるであらう。

處女林の開墾といふことは今日餘り見ない所であるが、處女林を開いた所ではゴムを植付けてから始め數年は病害を見ること少ない。所謂 *Dieback* 病の如きも、乾燥期には有効に退治せられてゐる。然し、東方の波状地域では、十年以上経過したゴム園では、根菌病が威力を逞ふしてゐる。殊に

以前第二次生矮樹林が相當發達してゐた所に於てさうである。一團の樹木が、此病の爲めに或は枯死し、或は枯死しかけてゐるのが、どの土人園にも見受けられる。而して、此趨勢は年々増加の傾向にあることを疑はない(第十九圖参照)。數日間吾々を案内して呉れた極めて理解ある馬來人農業技術者は、彼の記録を基とし、既成園中病菌其他の爲めに枯死する樹木は、七パーセントを下らないと言つてゐた。然るにも拘はらず、馬來人等は、最後の一滴をも搾取せんが爲め手當り放題に生樹を痛めてゐる。病菌の害を蒙つてゐるゴム樹は、往々にして白蟻の害を蒙つてゐる。馬來人は此白蟻こそゴム樹を殺すものであると信じてゐる。一度タップングした樹皮には微腐病を生ずる。これは、無論雨期に於て特に甚だしいのである。樹幹の脱皮した部分に多く斑點を見るのは此病氣あるが爲めで



第十圖 一河畔に於ける多病の樹



ある。微腐病も *Burr* 病の場合と同じく、乾燥期には大したことはなくなる。然し、何れにしても此病氣の爲めに、果してどれだけの影響が樹の浸出量の上に與へられるかは疑問である(大したことはない)。開拓區域が、一層山手の方に移轉するに連れ、野鹿に依る損害は甚だしくなる。新園の一部分が、野鹿の爲めに駄目になつてゐる所を吾々は諸處に目撃した。

タツピングしたゴム樹で *Brown Rust* (褐皮病) に罹つてゐるのを吾々は到る處で目撃した。是れは、ギザム、切傷を澤山に付けてゐることから當然起つて來るのである。古いゴム園の産出額が最近著しく減退してゐるのは、一つは此 *Brown Rust* 病に基因するのである。

**タツピングと産額** 最初のタツピングは、五・六年生の時に、地上十八吋位の處にV字形又は螺旋形に何れも半圓形に行はれる。而して、樹の木質を傷害するやうなことは先づない。土人園は、樹皮の消費量が多いから(分厚に切付ける爲め)、十二乃至十五箇月位すると、樹皮は両面とも無くなる。さうすると更に一段高い所に切付を開始する。葉の生長さへ良好であれば、樹皮の恢復は普通に進行する。然し、土人は樹皮が、尙ほ未だ充分に恢復しない時に、再切付を行ふから、木質の傷害は頗る多い。三回目の切付の時には、傷害は一層甚だしくなる。斯く、將來に於ける皮質の更新に何等の注意を拂つてゐないから、第二回目の切付が濟んだ後は、ゴムの浸出量は著しく減退して來る。之を補はんが爲め土人等は、液の浸出しさうな樹皮の部分に向つて二、三の切付を行

ふ。それでも、探液の數量は到底恢復出來ないから、此頃では、以前よりは多數の樹木をタツプする。家族でタツピングを行つてゐる小ゴム園は別として、人手を使つて作業を行つてゐる大規模のゴム園になると、今日平均切つてゐる樹の數は一日平均四百七十五本である。而して、之に依つて生ずる乾燥ゴムの數量は、僅に平均四封度餘に過ぎない。吾等の取調べた所に依ると、一年の平均タツピング・デイは二百二十五日以上である。回教の斷食月と金曜日には殆んどタツピングを行はず、マーケット・デイ及び其他の祝祭日には作業しない。右の如き作業日から計算すると、一英反の生産額は九百三十三封度といふ計算になる。然し、*Brown Rust* 病及び各種の原因に依る樹皮恢復力の不足の爲め、各英反につき植樹の約三分の一は、永久にタツピング出來ないといふのが一般であらうから、一年一英反當りの實際の産額は、六百二十二封度となる。併し、二年前もつと景氣の良かった時は、産出額はこんなものではなかつた。其當時の記録並に吾人の行つた實際の試験からして、一九二七年には一英反平均七百封度内外を産出してゐたこと、信ずる。一九二七年は、ゴムの最大の産出を見た年で約一萬七千噸の乾燥ゴムを當州から輸出した。

以上述べた産出額から計算すると、現下當州に於けるゴムの生産面積は五三、〇〇〇英反であり、米生産新園の面積は其約五倍であることと、州下全體のゴム園の面積は三二八、〇〇〇英反である。然し、新園殊に過去二期に植付けられたゴムが成熟期に至るまで無事で育つかどうかは疑問で

ある。吾々は火事野獸の害を眼中に置かねばならぬ。只然し、此の如き原因で、果してどれだけのゴム園が、實際駄目になるかといふことは無論確言出来ない。

**ゴムの製法竝に取引** ゴムは總て濡れ板に仕上げられる。凝固用として使用せられるのは明礬である。最近までは濡れ板ゴムの厚味も品質も頗るまち／＼であつた。土人は板ゴムに、スクラブ・ゴム及びパーク・ゴムを混合してゐた。然し、二、三年前五パーセントの輸出税を賦課するやうになつたと同時に、スクラブやパークを混合するといふ習慣は留つてしまつた。パレムバン州の知事は、板ゴムの厚味、スクラブの混用について別に取締法を制定し、チャムピ州でも亦同様の法令を發布した。斯の如くにしてゴム板の標準化といふものが、パレムバンに於ては完全に行はれることにならう。

目下パレムバン市に二つの和蘭人工場があり、土人製の濡れ板ゴムを買収し、ブランケット・クラブを製造し、一年約一千七百噸を輸出してゐる。然し、濡れゴムの大部分は新嘉坡に輸出される。新嘉坡の一支那人ゴム工場主は、買付を爲す爲めバ市一代理人を置いてゐる。聞く所に依れば、地方の土人商人は、前記の蘭人工場にゴム板を賣るよりも此支那人に賣ることを好む。蓋し、此支那人は、蘭人工場よりは高い値で品物を仕入れてゐる。奥地に於けるゴムの買付は、各奥地の中心地で殆んど全く馬來人、亞刺比亞人の手に依て行はれてゐる。此等買手の或者は、パレムバンに於ける

大取次人のエゼントで、之等エゼントに對しては、バ市の大取次人が毎日電信でゴムの相場を新嘉坡から取り、自家用の暗號で其日々の相場を電信で通知してやる。

**勞力竝に將來の生産豫想** ゴム相場好調の時代には、生熟園を持つてゐる土人農家は、自らタツピングに従事することを潔しとしなかつた。又事實生産區域の切付をするに充分なる勞力が地方的に或は爪哇から得られた。爪哇へは汽船にて僅か二日の行程で、好況時代には或パレムバンの郡の如きは、郡内の農家より集めた基金に依つて爪哇から移民を吸収し、其爲めに一名の代理員を爪哇に派遣駐在せしめてゐた位である。元來爪哇苦力の少からざる數が、自己の發意でスンダ海峽を超え、更に汽車にてパレムバンに入込み、高丘地方に於て胡椒珈琲の栽培に従事する者が、平生少ない。之等の爪哇苦力、山岳地帯に於ける各種の歐羅巴人園に勞働し、其處から逃亡して來る所謂ランナウエー苦力で、ゴムの好況時代にゴム園に働いてゐた者が多數にある。然し、不景氣の今日は狀況が全然違ふ。今日爪哇苦力のバ州の郡部のゴム園に残つてゐるものとは殆んどなく、タツピングは多くは地方の馬來人若者に依つて行はれてゐる。家族の手に依る切付採液も經濟上の必要から今や一般的になりつゝある。只然し、傭人の數がいくら、家族的にタツピングを行つてゐる者がいくら、土人青年の之に従事する者がいくらといふことについて、精確なる數字を示すことは出来ない。

生産良好なる地域では、どこでも五分五分に分けるといふのが、園主とタツピング苦力との約束である。濡れ板ゴム一擔二十五仙(盾仙)とすれば、乾燥原料ゴム倫敦相場が一封度につき五片半乃至六片となり、此相場の割合で行けば、一日平均四封度餘の乾燥ゴムに相當するものを生産すると苦力の側では七十  
五仙(盾仙)乃至八十仙の収入があることになる  
生産力が之よりも低いゴム園では、タツピング苦力の所得をば生産價額の三分  
彼等は尙まだ自らのゴム園を所有せず、さらばと言つて父兄の園に労働することも潔しとせざる者か、或は又最近植つけたゴム園を持てるも、まだ其れが切付の時期に到達してゐないものである。



第十二圖 第一バムン地村落

の二まで引上げる場合もある。  
現在三分の二以上支拂つてゐる處はない。分合でタツピングを行つてゐる労働者は、今では地方の青年が多く

本州では、生熟園の殆んど全部が採液せられてゐる。然しゴム相場が例へば一封度一志六片になつたとしたならば、若木で苟くも切付に堪え得る樹木は悉く切付けられるであらうし、生産額は今日より遙かに増加するに相違ない。然し、ゴム相場が向上し、生産を増加せねばならぬことになつても、苦力の収入が一日八十仙乃至一盾(吾が八十錢)位である限りは、當地方に於て苦力の不足に苦しむやうなことは絶対にない。何となれば當州は比較的人口が多く、而も其れが萬遍なく各方面に行渡り、スマトラ幹線鐵道が部分的に開通したると共に爪哇では苦力などが、非常に容易にパレンバン地方に出稼ぎ得ると信するやうになつたからである。吾々が、當地方で一般に聞及んだ所に依ると、倫敦相場が一封度六仙位に下落しても、可成りのタツピングが行はれるであらうといふことであつた。

當州でゴム園以外の仕事、例へば官營石炭坑、土木事業等に於ては、労働者は平均一盾の報酬を得てゐるし、珈琲エステートなどでは一盾よりは今少し餘計に貰つてゐる。然し、不思議にも、當州産の労働者は、之等の仕事に轉向せんと思せず、安くてもゴム園に働く。其れで、官營事業などでは勢ひ爪哇苦力を輸入し使役してゐる。鐵道線路擴張工事などでは全部爪哇人を使役してゐる。

現在ある新植ゴムの一割以上は、一九二四年に植付けられてゐることは確實らしい。然し、最近數年に於けるゴムの生産額を算出するには、吾等の爲せる調査よりは、もつと精密なる調査を必要

とする。故に假りに本書の序論中に説明した尺度を根據として、来る五年間に、當地方に於て生産せらるゝゴムの可能量を算出すると、大約次の如くである。

一九二九年	一八、五〇〇噸
一九三〇年	二八、五〇〇
一九三一年	四三、五〇〇
一九三二年	六一、〇〇〇
一九三三年	七七、〇〇〇

**土民の經濟狀態** パレムバン州の馬來人はゴムの市價下落の爲め、經濟的に非常なる打撃を受けてゐるといふことは出来ない。ゴムの市價狂騰前でも、富裕なる馬來人は、何れの方面にも生活し、(第二十圖を見よ)、ゴムの高値は彼等が張り切つてゐた弓を、更に満月の如くに張詰めたゞけに過ぎない。彼等の多くは思ひ掛けない財貨を懐にし、メツカに巡禮を企つることに依つて、日頃の希望を達した。而して、或者は或は自動車を買ふことに依つて金錢を消費する途を發見した。美麗なる衣服、高價なる裝身具、蓄音器等も右から左へと買求められた。馬來人にはめづらしい堅固な家屋が、以前のやうに棒杭の上に於てゞはなく、コンクリート支柱の上に建てられた。コンクリートの支柱だけ出來て、上屋の建つのを待つてゐる家も處々にはある。これは、ゴ

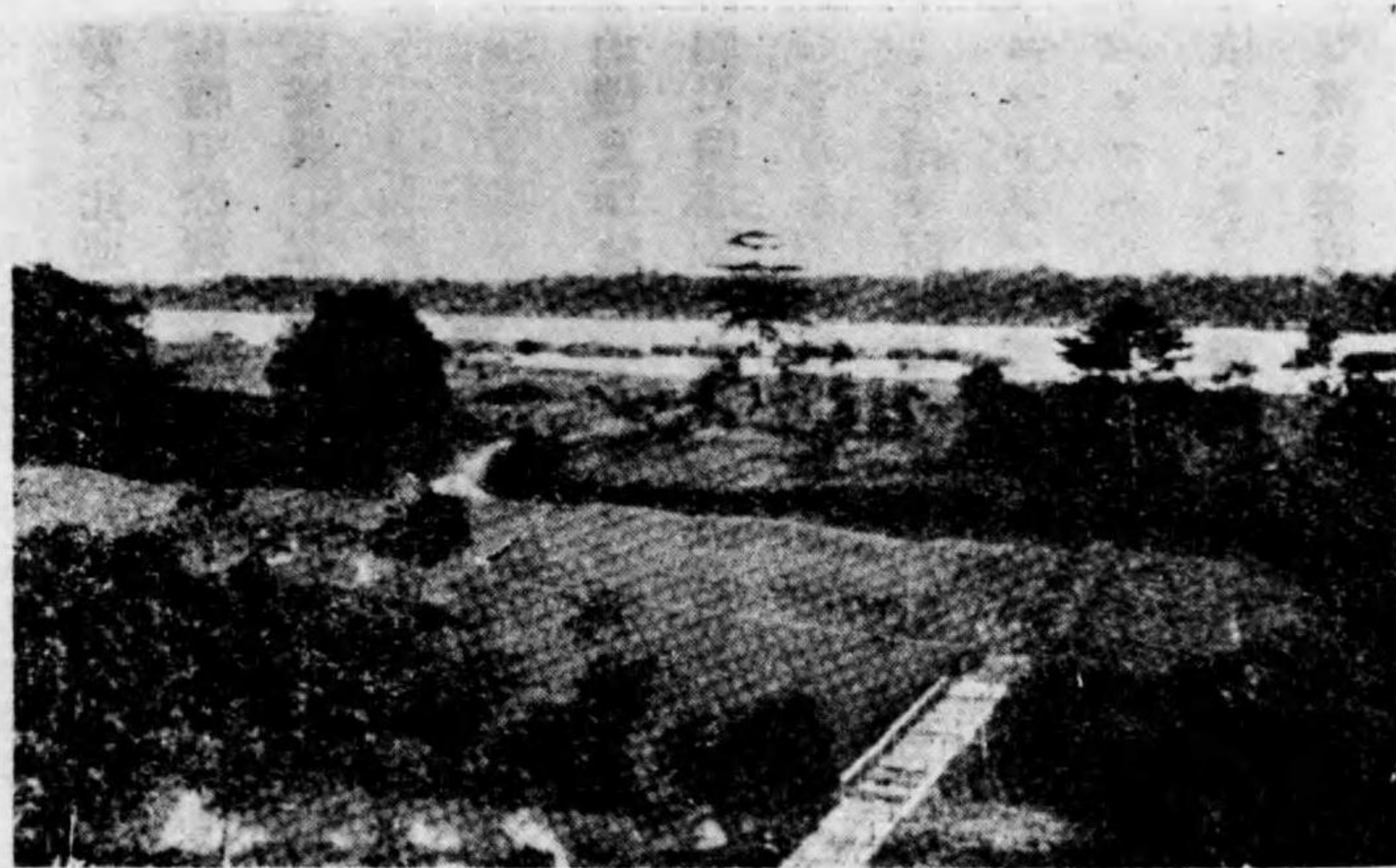
ム市價の續騰を當込んでゐたものが、見込外れとなつたことを示すブーム時代の遺物である。

要之、此地方の馬來人は、生活必需品はいつも手元に持つてゐる。衣食には困らない。ゴム以外の作物で餘剰の資本を得てゐる。東南ボルネオ州のウルー・スンゲイ地方程ではないが、土人は一般に繁榮の雰圍氣に恵まれながら生活を續けてゐる。

## 第六部 スマトラ・ヂャムピ州の部

**地理及び地形** ヂャムピ州は、スマトラの東岸パレムバンの北隣に在り、赤道の南一度と二度との間に横はつてゐる。ベンクルン州とスマトラ西岸州とが、西方の境界をなしリオウ州が北に塞がつてゐる。本州の面積は、大約一七、〇〇〇平方哩で、英蘭と威耳斯とを合計したものの三分の一より稍々面積に於て劣つてゐる。

スマトラは南部の諸州と同じく、當州の地積の四分の三程は一大河流の流域となつてゐる。此河をバタンハリ(Batanghari)と稱し、本流は西岸州のバダン高山に其源を發してゐる。淺吃水の汽船に依るときは、西岸州の境界まで溯航することが出来る(第二十一圖參照)。バタンハリには又大なる支流が澤山にあり、可成りの上流まで舟を行ることが可能である。大方は其源をパレムバンの西方にある主山脈の延長たる西南部(ヂャムピの)山脈に發してゐる。バタンハリよりも小さい數多の



第二十一圖 バタビア州の河川を望む

河流—其れは州内を曲りくねつて流れてゐる—が、チャムビ州の残りの四分の一に於て其東北地方を排水してゐる。バタンハリの本流には、本州の首都たるチャムビ市が、河口より約九十哩程上流の方にあり、河口の方は、いくつかの大なる三角洲がある。KPM汽船会社の社船が、チャムビ市バタビア市新嘉坡市の間を走航してゐる。別に支那人汽船が新嘉坡とチャムビの間を往復してゐる。

山脈に接近せる高丘陵地帯の土地は、例に依て地味頗る肥沃である。然し、中央の山脈と東海岸の平地との間にある波状地帯は、大體に於てバレムパンの其れに似てゐる。只面積に於て、バ州の波状地帯より狭く地質もより多く砂状を呈し、隣州の其れに比し、幾分劣つてゐる。三角洲地帯は、バレムパンの其れの如くに、スウオムプが深くないらしい。三角洲の大部分は、

最良の黄色粘質土壤からなり、排水工事を施すことなく、其儘使用出来る。是れは同地方が、干満の差二十四呎といふ大潮に支配されてゐるからである。

聞く所に依れば、チャムビ州の總面積の三分の二は、今尚ほ處女林に覆はれてゐる。其れにも拘はず、同州では、土人が最近ゴム栽培の方に走つてゐるので、林産物の出荷が非常に少くなつた。只幾分か昔日の産出量を保つてゐるのは藤とチェルトゥーンだけである。

人口 スマトラの他州に比較して、チャムビは人口が少ない。即ち總數僅に十八萬五千人、其中東洋外國人（主として支那亞刺比亞人）が約一萬、歐洲人歐亞混血人が約三百である。其他は色々血を交えてゐる馬來人で、馬來半島の奥地にゐる馬來人と同じく、餘程原始的である。馬來種族中、約十萬人は、州全體の面積の半分足らずの地積に群在してゐる。海岸地方には、ココ椰子の栽培を生業とするバンチャル人の部落がある。彼等の輸出するコブラは、今日餘り大數量でないが、段々に増加しつつある。

チャムビは、新嘉坡の正南汽船にて、只僅に二日の行程にある位であるから、支那人の、此地に移住するものが多い。然し、彼等は永住しやうとすれば、百盾の入國税を、仕拂はねばならぬ。併し、此百盾の税金は、和蘭人以外の外國人（歐洲人も亦）が總て仕拂ふもので—永住せんと欲せば—、支那人に對してのみ差別的に、課せられるものではない。只百盾は支那人に取ては痛いもので

ある。

氣 侯 チャムビ州もバ  
レムバン邊りと同じく、東  
西季節風の影響を受ける。  
然し、餘りに近く赤道に接  
してゐるが爲め、バレムバ  
ン其他より遙か南方に位  
する地方に於けるが如くに  
乾燥期が明瞭でない。平均  
一年の雨量は九十七吋半で  
最濕の時期は矢張り十月か  
ら翌年四月までである。比  
較的乾燥するのは七月から  
九月までで、其間にはゴム  
の落葉が行はれる。本當の



第二十二圖 ヤムビに於ける船渡

乾燥期といものは、此處に  
はない。  
交 通 縦横に大河を控  
えてゐるチャムビ州の如き  
處に於て、交通と運輸とが  
主として河川に依て行はる  
といふことは敢て異むに  
足らない。KPM汽船會社  
並びに支那人所有の鱸用バ  
ツドル・ホイール汽船は、奥  
地高丘陵の麓まで溯江して  
ゐる。而して、多數のモー  
ター・ランチは、チャムビ州  
の主要村落間を航走してゐ  
る。

主都チャムビには、其周圍に數哩の道路を有するのみ。其處への連絡は船舶に依つてのみ保たれ  
得る。チャムビの奥地に、二つの部落を連結する延長三十哩の道路らしい道路が、一支流に沿ふて  
走つてゐる。此道路は大部分砂利を施してあり、一年中を通じて使用し得られる。他にも道路と稱  
せられてゐるも  
のがある。就中  
著名なるはバレ  
ムバンとの州界  
から北西に向ひ  
高丘陵の麓を縫  
ふて走つてゐる  
ものである。此  
道路は所々渡  
ン道路とでも稱すべく、雨期中は全く使用に適せず、他の時期と雖も、必ずしも安全に旅行するこ  
とを許さない(第二十三圖参照)。バレムバンからの此道路は、スマトラ東岸の幹線道路をなすもの  
として、政府は爪哇苦力を入れて、之に修繕を加へ、高級な道路に仕替えんとしてゐる。チャムビ



第二十三圖 無砂利道路

船にて連絡せら  
れ、これらの部  
分は必ずしも安  
全だとは言はれ  
ない。これは併  
し道路と言はん  
よりは、チャン  
グルの中を斫り  
拓いた草道ララ

を中心として、二つの道路を開通しやうとする計畫も目下考慮中である。

スマトラの開発は、今や蘭人官民の大問題になつてゐるから、バレムバンからの鐵道を引延してジャムビの西部を通さうといふ計畫は既に決定済みである。但し、此鐵道が千九百三十年代にジャムビで完成するか否かは頗る疑問である。

**當地方の作物** 此地方の住民は、他の地方の馬來人と同じく、住家の周圍に檳榔樹古々椰子樹を植えてゐる外、ゴム以外の作物を植栽してゐない(第二十四圖參照)。只最近の傾向として、土人が珈琲を植え出したことが認められる。

既に記載した通り、當州では、バンチャル人が海岸地帯に渡來定着して古々椰子の栽培を行つてゐる。然し、彼等の栽培事業は、其規模尙未だ非常に小さく、當州全體として年僅かに一千一百噸のコブラを輸出してゐるに過ぎない。

土人は、恒例として、處女林、第二次生林を開墾して陸稻を栽培してゐる。但し、陸稻を栽培するときには、殆んど例外なく、同時にゴムを栽培する。然るにも拘はらず、當州は、州内の需要を充足するだけの米を産出しない。而して、不足分は新嘉坡から外米を輸入してゐる。新嘉坡からの米の輸入は、一九二三年には七千五百噸に過ぎなかつたものが、今日では殆んど其倍額に達してゐる。

又以前には、江河の上流で、兩岸を開墾して相當面積の水田を作り、水稻を栽培する習慣であつた。併し土人は、水田耕作々業は、收穫は多く齎すが骨が折れるので、最近では骨の折れない陸稻とゴムとを混植する爲め、近傍の二次生チャンゲルを開墾するやうになつた。奥地に勤務せる一郡官吏は、吾々に、彼の地方に於ける土人等が、己等の耕作せる水田のみならず、住宅地其物をも棄て、低い山地に降りて行つたことを語つた。

**土人のゴム栽培**、土人ゴムは、波状をなせる低丘陵地帯と、ジャムビを基點とし、諸河流の兩岸に沿ふてすつと上流の方まで植付けられてゐる。然し、河岸からの奥行は餘り深くない。土人が好んで河岸を撰擇する理由は、内陸深く這入り込んでも交通の便がないからである。併し、苟くも山道のやうな道さへある所に



(頁二十八第)圖有所に並屋家人來馬一圖四十二第

は、必ず其處に何程かのゴムが植えてある(第二十五第二十六圖参照)。吾々は、當州に於けるゴムの植付面積を稍々正確に推計するに足る程永く逗留しなかつた。此國には旅行の便が少く、奥地に這入るのには少からざる困難があるので、餘程永く滞在せねば正確な調査は出来ない。然し、吾々が集め得たる材料の範圍内で推斷すると、未生産新園の面積は、生産面積の二倍以上であることは確かである。加之、他州と違ひ土民の生産する檳榔子と言ひ、コブラと言ひ、米と言ひ論ずるに足らない程少額であるから、此州に於てはゴム栽培は、彼等の主要産業と稱するも不可ならず、自然一九二〇—二二年のゴム不景氣の際と雖も相當の植付あり、今日ゴム價不勢の際でも陸稻栽培地にゴムの植付が行はれてゐる。旅行者は土人が植付に使用するゴム樹の苗束が、根を河水に浸し乍ら伐の中で積込まれてゐるのを此處彼處で目撃するであらう。

地方の村長が、郡長に提出する月報—此月報は統計と稱するに付餘りに不正確であるかも知れないが、に依ると、土人の手に依るゴムの新植は、一九二六—七年の如くに旺んではないが、尙相當に行はれてゐることを示す。又吾々が副理事官から聞いた所に依ると、政府は最近ゴム以外の作物に手を代へるやう土人農民に勧告してゐる。然し、吾々の見たる所では、政府の勧告はヤムビ州では大した効目がないらしい。

ゴム園の一般的狀況 吾々は、旅行の際ゴム栽培をのみ目的として土地の開墾をなせる所を折々

目撃したことがある。然し、其れは寧ろ例外に屬し、此地方の一般的習慣としては、矢張り米とゴムのを同時に耕作し、米を一二回收穫して後に、ゴム園に仕立てるのが普通である。陸稻を耕作してゐる中は、其發育に必要な手入れを施すが、陸稻を作らなくなれば雑木の生長に放任する。只稀れに雑木を拂つて手入れを施す。手入れを施せば、大抵の場合にゴムが雑草雑木を



第二十五圖 並木如く植込めたるゴム

て園の所有者が園内に住み込むことになれば、自然的に幾分かの掃除は出来て行く勘定である。ゴム園として開拓した土地は、通例其一小部分のみがララン草の害を蒙む。其れは、ララン草の種子の給源となるべき、廣い野原が近傍に缺如せる爲めと、ラランよりは雑木の方が生長迅速である



からである。

ゴム樹は五・六年にして採液を行ひ得る状態にまで發育する。採液出来る状態にまで發達すれば周圍に生えてゐる雜木と實生のゴム樹とは切拂はれることになる。土人ゴム園では、園は實生のゴム樹で歩けない程になり、一小徑を其間に作つて、辛ふじて母樹から母樹へと採液するといふ有様である。斯く、ゴムは大抵植付後五・六年後にして採液するが、相場が思はしくなければ七・八年も棄て、置く。

當州の百姓は他州に比較して、一英反當り多くのゴム樹を



第二十六圖 雜草密生せる道路に並木の如く植込るめム

植付けてゐるかの如くに見える。即ち、從來は反當り四百五十本から五百五十本若しくは五百五十本以上まで植えてゐた。是れは一面深酷なる陰影を作ることによつて雜木の生長を阻止することになる(第八十八頁第二十七圖參照)。然し密植と粗雜なる手入、之に伴ふ害菌跋扈の結果、他州と

較べて成熟する樹木の数が少ない。それでも、一英反に對する立木(成熟したる)の数は、四百本以上が普通である。最近植付けをしたゴム園では、以前の手法とはまるで反對に、又お隣りのパレムバン州邊りで行はれてゐる行き方とは、まるで反對に、一英反につき僅か二百五十本から三百本まで植込むことが流行してゐる。土人園主の言ふ所に依れば、立木数の少ない方が、タツピング苦力に取つて有利である、換言すれば、タツパーが一日に採液する量が多くなると。依是見之、ジャムビ州にも苦力獲得難があることが明かである。

處女林の開墾區域に、一英反に付五百本以上のゴムを植込んでゐる所から自然病菌の害に侵され易いことになる。十年若しくは其れ以上の樹齡のゴム園で、根菌(主として *Fomes pseudo-ferreus*)の侵襲を受けて惱んでゐるのは多數にある。否實に *Fomes pseudo-ferreus* の及ぼせる害は、吾々が視察せる前記諸州に於てよりは當州に於て最も甚だしい。數英反に亘るゴム林が、此菌の害毒の爲めに枯死してゐるのを到る處に見受けた。此處に面白い現象は、多數の枯死せるゴム樹を有する林の中に、其種子から繁殖せる多數の生々とした幼樹(或物はタツピングすら出来る位に生長してゐる)が発見せらるゝことである。生長の様子から見て、之等の幼樹が目下根菌病に侵されてゐるらしくは見えないのだが、あの根菌病に惱まされてゐる區域にある樹木が、長命を保つといふ風には、どうしても考へられないのである。河畔に設けられた園には、根菌の害が少ない。これは、河畔は、

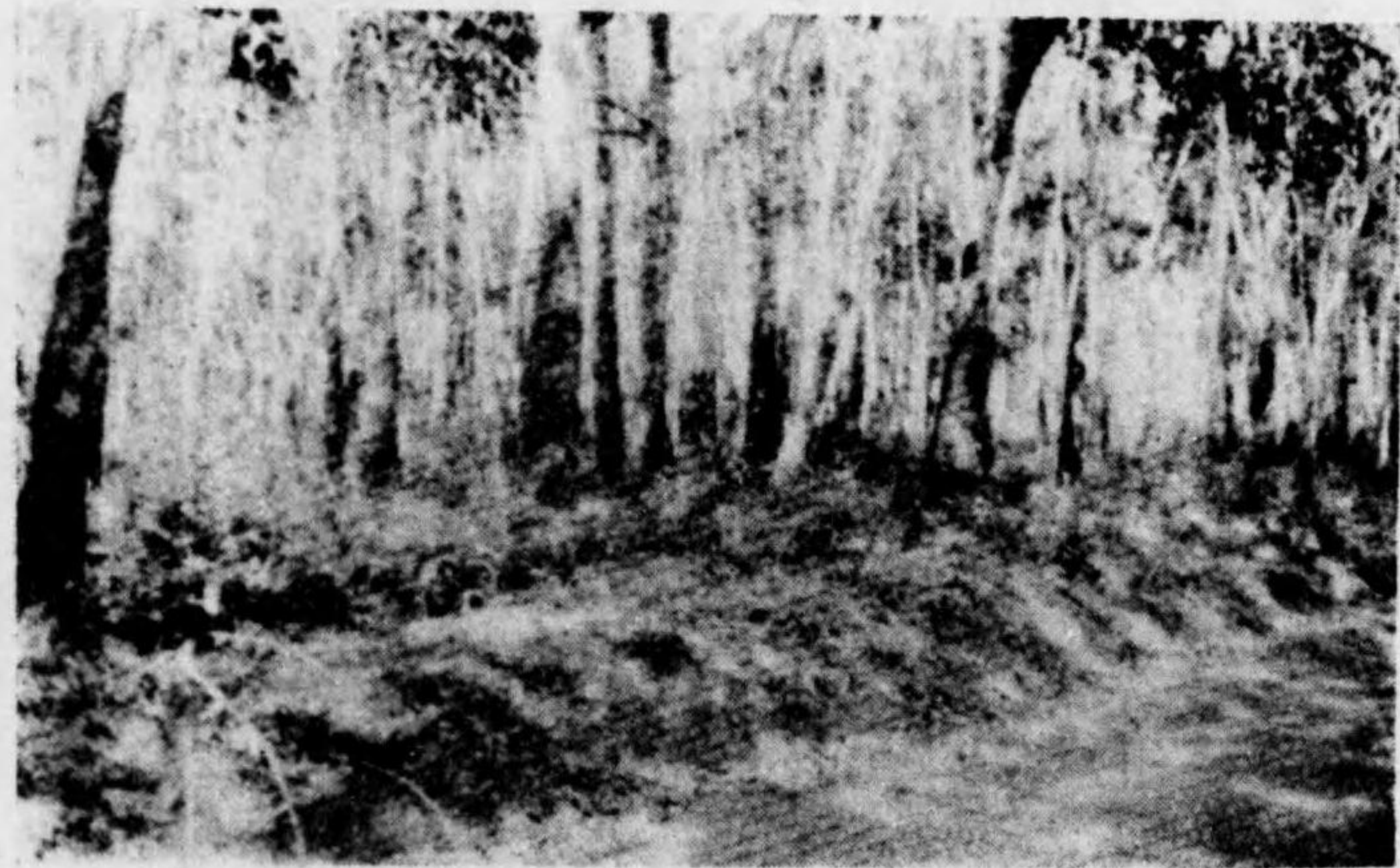
ゴムが植付けられる前に、他の作物を耕作する爲めに幾度か開墾せられてゐるからである。

白蟻の害を受けて枯死してゐるゴム樹も到る處に見受けられる。然し、其れは多く根菌病に侵されてゐるものに於てである。只反當り植付本数が多いから、白蟻の害に斃れたるものがあつても、根菌の場合と違つて、其れは問題でない。

吾々は、多くの土人園に於て、微腐病を見た。土人園で、採液せられたゴム樹の皮の部分が、往々にして不定形に木質を露出せるは、此病あるが爲めである。

Brown bastの害に侵されてゐるゴム樹も、此州に於てなかく多い。即ち、肉瘤と切傷とを有するゴム樹は吾人の調査区域のどれよりも、當州に於て多く見受けられた。

Pink病(Pink菌)は、此州では、ゴムの幼樹の幹を



樹ムゴるせ植密一圖七十二第

攻撃してゐる。然し、傳染的と稱する程に此病は今日傳播してゐない。

前述せる各種の根菌病が、ゴム液の生産の上に相當悪影響を與へつゝあることは、疑ひを容れぬ所である。蘭領印度農商工務省技師ドクトル・ペーケル・ハーリングは、一九二四年の七月から九月に亘つて此地方を視察し、只僅か根菌の病を見た。然し其れは當時乾燥期、落葉期に際し、其發見が困難であつたからで、翌一九二五年第二回目にドクトル・ペーケル・ハーリングが、ジャムビを視察した時は、根菌病が大に發展してゐることに氣がついた。兎に角ペーケル博士が第一回に當州を視察せる時は該病が園の生産力に影響する程の悪影響を與へず、辛ふじて其存在を認められた位の程度であり、其翌年には目立つて見ゆる程其害が著しかつた所を見ると、古い護謨園に於ける同病の蔓延は、大體に於て過去四年の間に行はれたものであらうと考へられる。何れにしても、吾々は該病が、當州に於けるゴム園の生産力に果してどれだけの悪影響を與へつゝあるかを正確に決定する材料を持たない、然し前に説明したやうに、悪影響の程度は、一年一割以上であらうといふ風に考へる。

**切付法産額、生産竝に植付面積** 成熟したる幼樹に對しては、土人は其基脚に、V字形の切口を付け、翌日は其反對側に同じくV字形の切口を付けるのを以て最も普通とす。而して、何處でも有勝ちの事であるが、土人園は一般に樹皮の消費が多い(一月に三吋以上)から瞬く間に切る所がなくなり、其結果として上の方へへと切付を土人の想像の向く所に向ける。第一回切付の際ですら彼等

は木質を傷害することを何とも思はない。それでも、此地方は、概して地味が良好なものと、樹冠の發育が良いから、第一回切付の後は、樹皮の恢復は比較的迅速である。只然し、餘りに早く第二回目の切付をするが爲めに、木質の怪我を大にする。斯様なことを何回も繰返さない中に、樹は、ゴム相場が餘程高くならなければタツピングしても到底引合はな  
いといふ程に生産力を失ふ。それでタツピング苦力は、矢張り大體收穫の半分を給金として貰ふといふ取極めであるから、生産力のぶい園は棄て、しまひ相當收穫を期待し得る所の次の園に移動する。斯くて、幸ひにして、最初の園は休憩期間を與へられることになる。それであるから、ジャムビ州に於ても成熟せるゴム樹の全部が同時に、タツピングナイフに掛けられてゐる譯ではない。



第二十八圖 アブラウパント病の爲め肉瘤を生ぜず  
に拘らばすタツピング

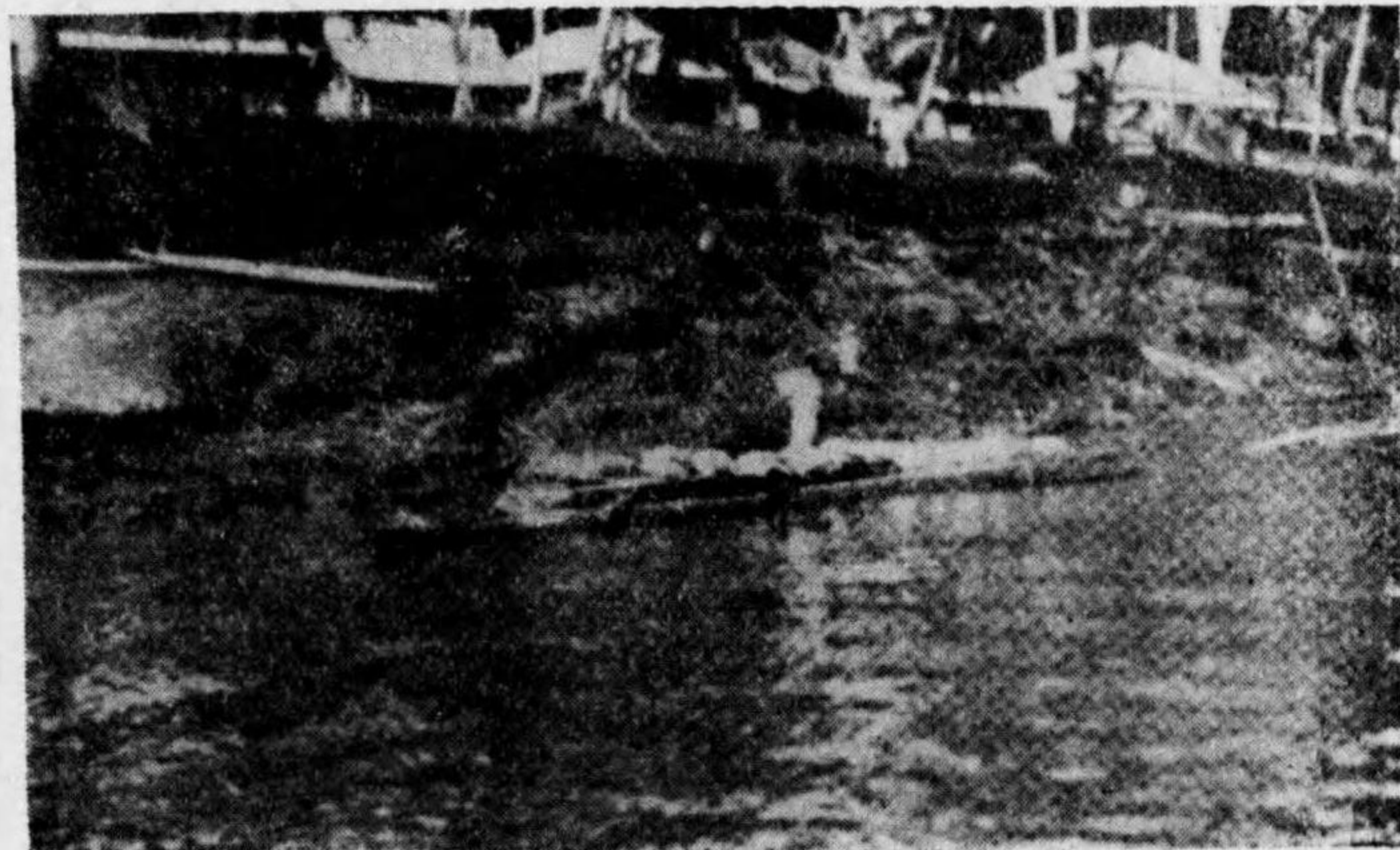
園は、今述べたやうな鹽梅に、急速に痛められてゐるから以前は平均三五〇乃至四〇〇本切つて

るたものが、今日では六百本まで切つてゐる。然し、此州でも傭人の手に依らず、家族自らタツピングするといふ習慣が一般的になつて来て、生産力が減退しても家族が従業すれば引合ふことになる。それでも、今日のゴム相場で、傭苦力が一日五封度のゴム(乾燥ゴムにして)を收穫すること出来れば、平均七十仙乃至一盾の所得を得ることになるから、彼等を引付けることも強ち困難ではない。

當州のゴム園は、休みなくタツピングを行へば、最良の状態に於て、一英反當り一千封度近くを生産すること可能である。ドクトル・ペーケル・ハーリングは、一英反當りの産額は、九百封度から一千八百封度であると計算してゐる。吾々は、交通不便なる此州に於て、短時日を以てして奥地深く這入つ行つて細かく調査を遂げた譯ではないから、判然と生産額を示すことは出来ないが、稍々精細に調査したバラムバンと一般の狀況が似てゐるから、バ州の生産額から割出して一英反七百封度を以て、當州に於ける平均の生産額として植栽面積の計算に移るであらう。最近最も多量のゴムを輸出したのは一九二七年で、同年に於ける輸出量は一九、〇〇〇噸であつた。而して、一九、〇〇〇噸の輸出をしても、生産面積の全體をタツピングした譯ではないから、一九二七年の可能生産量は、一割五分増(是れは控え目の計算)の二一、八五〇噸であつたやうに想像する。之を封度に換算し、更に之を前記反當りの生産量七〇〇封度で除すれば、其年の生産面積は七〇、〇〇〇英反内外と

なる。又未生産面積は生産面積の約二倍といふ計算であるから、一四〇、〇〇〇英反となる。一二〇、〇〇〇英反といふ面積のゴム園が、將來完全にタツピングせらるゝか否かといふことは、ゴムの値が恢復するか否か、ゴムの値が恢復して、充分なる人手を移民に仰ぐこと出来るか否かといふことに存する。

**ゴムの製造及び取引** 當州産のゴムは、以前は土人産ゴム中最悪の製造品として知られてゐた。然るに目下バレンバン州の知事を勤めてゐる人が、當州の知事であつた時分(一九二八年)、ゴム製造に關する規則を勵行する爲めに強硬なる手段を採ることになり、今日では、明礬で凝固したゴム汁は、更に廣い薄い板にまで壓延せらるゝ。スクラップなども、今日は濡れ板に混合することなく、別に「ケーキ」として製造せらるゝ。ジャムビ市には、三つの再製工場がある。中につき



第二十九圖 河畔に於て運搬を待つ濡れ板

最大なるは和蘭人所有に屬し、年に一千七百噸のブランケット・クレブを輸出する。

土人製の濡れ板ゴムは、種々雑多なる方法で奥地から各地方の中心市場に持來される。或物は最初人手で最寄の河岸に運搬され、其處から土人ボート(第二十九圖を見よ)で更に大なる中心地に運送される。チャングル中の小徑を縫ひ手車を以て運ぶ者あり、道幅廣く路面の稍々整つてゐる所では自轉車、自動車で濡れゴムを運搬する。小仲買商は多く馬來人支那人である。之等は買入れたゴムを更に、モーター・ボート又は汽船を所有し、河川を利用してあちらこちらに買ひ歩いてゐる大仲買に賣る。前州知事は、水に浸れる濡れゴムが海外に輸出せらるゝことが、ジャムビ州に於けるゴムの聲價を損ずるといふ見地から、竹筏に積んでゴムを運搬することを禁じた。

**勞働問題と將來の生産額** 昨一九二八年ゴム市價の暴落と共に、移民勞働者の大部分は當州を去つたが、スマトラ西岸州の土着民たるメナンカバウ馬來人及び爪哇苦力が、五分五分といふ約束で、奥地でタツピングに従事してゐる。而して、ゴム園が荒れて、五分五分といふ契約ではタツパーに充分の報酬を齎さない所では、賣上價額の三分の一を雇主が取り、三分の二を雇人が取得するといふ契約の下に採液を行つてゐる。聞く所に依ると、以前には同じくスマトラ西岸州の郷族たるコリンチ人が、ジャムビ州に這入り込んでタツピングをやつた。然し、彼等は數年前から郷里で珈琲を栽培することを始め、而も其方が遙かに利益が多いので、最近數年はタツピング苦力としては働

いてゐない。これ、一には、ジャムビ州は、彼等の郷國に比較して生活費が遙かに高いのに由るものである。或人の説に依れば、乾燥ゴムの相場が、一封度一志六片位にならなければ、コリンチ族を當州に引付けることは不可能である。或郡で一ゴム園主から吾人の聞及べる所に依ると、該園主の手下で働いてゐるタツバーは、一日僅に六十仙しか得てゐない。六十仙は、彼等の生活費を辛ふじて支辨するに足る。スマトラ・ボルネオの他のゴム生産地に於けると同じく、奥地の小ゴム園主が、自己の生産品を賣つて得る所の金額は、倫敦相場の丁度半額に相當す。此半分といふ開きは、ゴムの市價が下落すればする程小さくなることは勿論である。

當州とバタビア新嘉坡とは、頻繁に汽船に依つて連絡されてゐる。此兩地を通じて勞働移民を吸收することは甚だ容易である。ゴム相場さえ恢復すれば、僅々二三週間内に、數千の移民が當州へ向け自發的に渡來するであらう。少くとも過去に於てはさうであつた。

既に記載した通り、土人園、殊に小土人園では、苦力不足の場合は、成るべく家族の者を代用してタツピングに當らしめ、以て生産を維持せんとする傾向があるが、近來のやうな相場（一封度十片二分の一）では、當州の輸出を大に増加するといふことは到底むづかしいと考へねばならぬ。家族の者をしてタツピングを行はしめるに就ては、雇主が急に雇人になり下つたやうに見えるので、土人は餘り悦びはしない。本書序論に説明したスケールを利用して、近き將來に於ける生産可能量を

計算すれば左の如くである。

一九二九年	二一、五〇〇噸
一九三〇年	二六、〇〇〇噸
一九三一年	三二、五〇〇噸
一九三二年	四〇、五〇〇噸
一九三三年	四七、五〇〇噸

**土人の經濟狀況** 一九二五—六年に於けるゴムの市價狂騰の結果改善せられたる土人の經濟狀況は、バレムバン・バンチャルマシン等に於けるが如くに著しくない。之れ一面には當州の土人が、他の調査區域に於ける土人よりも一層原始的にして、環境の變化を利用する力に乏しいことに原因するものである。然し兎に角一九二五—六年に於けるブームの結果として、以前椰子の葉屋根であつたものが瓦其他一層耐久的材料となり、村の景觀も著しく變化し、多くの回教禮拜堂が新築され、マホメットの出生地メツカへの巡禮者は、當州の歴史にない程の多數に上り、多くの發動機船は河上を疾走するやうになつた。自動車もあちこちに見えるが、何分にも道路が粗惡な爲め、大部落の周圍僅かの距離の外は之を使用することが出来ない。支那人商店に於けるストックの豊富なる所は、地方の繁榮を思はしめないでもないが、一般的に見て、例へば馬來半島に於けるが如く、土人が、

經濟的に見て、榮えてゐることは思はれない。

林産物例へば藤、ヂェルトウーンの輸出は、近年著しく衰へた。ごく最近になつて輸出増加の傾向が見えるが、土人がゴム生産の如く容易なる作業を棄て、苦痛多き林産物の採收に向ふとは考へられぬのである。吾等の信する所に依れば、チャムビの土人は、假令如何なる相場でも苟くも彼等のゴムを買つて呉れる者があれば、ゴムを生産することを休めないであらう。

第七部 結 尾

第二部から第六部に亘つて敘述した所を要約すれば大體左の通りになる。

見積栽培面積 本調査中に擧げたるゴム栽培の見積面積を再録掲載すれば左の通りである。單位英反。

地 方 別	採 集 區 域	未 採 集 新 園	合 計
西ボルネオ州	五三〇〇〇	一五〇〇〇	二二〇〇〇
東南ボルネオ州	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇
パレムバン州	五三〇〇〇	三二五〇〇〇	三七八〇〇〇
チャムビ州	七〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	二一〇〇〇〇
合 計	二二六〇〇〇	六六五〇〇〇	八九一〇〇〇

生産可能量見積 次に本調査中に擧げたる生産可能量の體の見積につき、再録掲載すれば左の通りである。單位噸。吾々の調査區域たるポンティアナ・バンチャルマシ・パレムバン・チャムビ地方は、蘭領印度土人ゴムの七割を産するといふ計算であるから、蘭領印度全體の産出量を計算するには、左記産出量の合計を〇、七で除すれば足りるのである。

生 産 年 次	西ボルネオ州	東南ボルネオ州	パレムバン州	チャムビ州	合 計
一九二九年	一九五〇〇	一六五〇〇	一八五〇〇	二二五〇〇	六六〇〇〇
一九三〇年	二四五〇〇	一九〇〇〇	二六五〇〇	二六〇〇〇	七六〇〇〇
一九三一年	三三〇〇〇	二四〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	一三三〇〇〇
一九三二年	四二〇〇〇	二九〇〇〇	三九〇〇〇	四一〇〇〇	一五一〇〇〇
一九三三年	五二〇〇〇	三四〇〇〇	四七〇〇〇	五二〇〇〇	一八五〇〇〇

生産數量 前數章に説明したやうに、土人ゴムの生産數量は、其市價と重大關係があるから、はつきり數字を擧げて説明することは出来悪い。然し、吾人の集め得たる材料から推斷すると、倫敦に於けるゴムの市價が一封度につき一志六片位であれば、生産可能量は前表に示したやうなものになる。

勞力の問題 吾人の調査區域に於ては、勞働者は何とかして得る途がある。只チャムビ州に於て

は、現存既成園すらもタツピングするだけの勞力が無いらしい。ないといふ確實な證據がある。

**勞力供給の問題** ゴムの市價が昂騰する場合、調査区域内に於ける總ての作付面積をタツピングするに必要な勞働者を急に得られないと心配すべき理由はない。只チャムビでは、勞働者を急に間に合わせるのに骨が折れるかも知れない。

**蘭領印度全部に於ける採集面積(既成園の面積)** 吾々の訪問した四つの州に於けるゴムの生産額が、蘭領印度全體の産額の七割である(前に屢々説いたやうに)と假定すると、蘭領印度に於ける一九二九年の總生産額は、約一〇八、五〇〇噸( $76,000 \div 0.7 = 108,571$ )となる。而して、吾々の調査と兩立し得る、吾々の調査に依つて得たる一英反當りの最低生産額は七百封度である。して見ると、蘭領東印度全體に於ける一九二九年の生産面積は大約三四七、〇〇〇英反( $2,240$ 封度 $\times 108,500$ 噸 $\div 700$ 封度 $= 347,143$ 英反)となる。

**蘭領印度に於けるゴムの總植付面積** 英領植民地がゴムの輸出制限をなしつゝある間に、蘭領印度其他輸出制限の協定に加入してゐない國々では、旺んにゴムの新植を行ひつゝあつたことは、受取らざるを得ざる事實である。今蘭領印度に於ける之等の新植面積が、既採集面積の約二倍あるとしたならば、同地に於ける總植付面積は大約百五萬英反( $347,000 \times 3 = 1,041,000$ )英反となる計算である。

**六七年後に於けるゴムの總産額** 蘭領印度の他の部分に於けるゴムの生産狀況が、大體に於て吾人の調査區域と同一であるとしたならば、當領の全産額は、六七年後には三十萬噸に上るであらう。但し、其れは、ゴムの倫敦相場が、一封度につき一志六片であるといふことを必要とする。

**將來に於けるゴムの植付** 蘭領印度に於ては、ゴムの植付は、殆んど無制限に擴張せらるゝものと言つて差支へない。何となれば、同地ではゴムを植えるのは年々陸稻の爲めに開拓する區域に、米と一緒にゴムを植えさすればよいからである。吾々の調査せる四つの區域に於てゞさえ、二十五萬英反よりは少からざる面積のチャングル又は矮樹林が毎年米栽培の爲めに開墾せられてゐる。

**現在に於ける植付狀況** 過去十五箇月間に於けるゴムの値下りと共に新植作業も著しく減退した。否、チャムビ以外の調査區域に於ては、新植は事實上中止せられてゐるといふも過言ではない。ゴムの値が上向くまでは、新しい植付は殆んど全く行はれないであらう。

**航空機に依るゴムの調査** 吾々は、上に擧げたやうな所謂未生産區域の面積などは、あてずつばに過ぎないことを許容せねばならぬ。それで、未生産面積と既生産區域との面積上の比較をするに就て、最も簡便にして、而も比較的精確なる方法は、飛行機に依る調査であるであらう。

英領政府は過去五年間に於て、二回程馬來半島の部分の空中測量を行つた。一は、英國海軍が半島山林局の請により空中より海岸地帯に於ける保有マングローブ林を俯瞰調査せるもの、他はデヨ

ホアの南部を調査せるものである。吾々も、這般の調査に於て空中調査を行ひ、大體の見當を付け、同時に空中より撮影したるゴム林を本書に添付する積りであつた。然し、土地測量局の手にある海軍撮影の寫眞を検査したる所、一萬呎の上空に於て撮影せる其等の寫眞は、餘りに地上から離れて撮られたため、例へば第二次生デヤングルとゴム林との區別がぼんやりしてゐる。吾等の耳にせる所に依れば、五千呎の上空で撮つた寫眞は、自然林と植樹林とを區別するに足る程はつきりしてゐることであつた。何れにしても、吾々は空中調査を行ふことが出来なかつた。思ふに、當領に於けるゴム林の空中撮影は、ゴム林を長い帯のやうな形で現はすであらう。何となれば、蘭領では、土人ゴム林の大多數は、河川又は道路の縁邊に設けられてゐるからである。

吾々は蘭領印度の如何なる部分でも、之を空中より撮影するといふ段になつて來ると、蘭領官憲の直接の監督下に於てなければ出來るものでないを考へる。然し、蘭領印度陸軍航空隊は、已に業に爪哇の多くの部分を空中より寫眞に收めてゐることを、此處に附言して置く。

グイ・エー・テイラー(署名)

デヨン・ステイヴンス(署名)



終